令和７年度　２年生

普　通　科

特別進学選抜コース

特別進学コース

特別進学国際コース

科・コースガイド

高崎商科大学附属高等学校

【国語科　シラバス】

科目名	文学国語			使用教材	教科書	文学国語（大修館書店）
学　年	2	単位数	2		副教材	学習課題ノート（大修館書店）
科・コース	普通科　特別進学選抜コース　特別進学コース　特別進学国際コース					

【授業の概要】

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てます。主として「思考力，判断力，表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する科目として，深く共感したり豊かに想像したりして，書いたり読んだりする資質・能力の育成を重視します。

【学習方法と授業の進め方】

第Ⅰ部９単元・第Ⅱ部８単元の二部構成となっています。現代の高校生が読むに値するテーマを追求した新鮮な教材や評価の定まっている基本的な教材がバランスよく配置され、小説、随想、評論、詩歌、古典など多様な時代・ジャンルの文章に触れることができます。その中で、課題に沿って文学的な文章を書く活動に段階的に取り組めたり、主要な古典作品に触れて我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深められたりできます。言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に着けます。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・言葉には，想像や心情を豊かにする働きがあることを理解しているか ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにできているか ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について，体系的に理解し使うことができるか。 ・文学的な文章を読むことを通して，我が国の言語文化の特質について理解を深められているか。	定期考査、授業中の小テスト等
②思考・判断・表現	・文学的な文章を書くために，選んだ題材に応じて情報を収集，整理して，表現したいことを明確にし,読み手の関心が得られるよう，文章の構成や展開を工夫しているか。また,読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫しているか。 ・他の作品と比較するなどして，文体の特徴や効果について考察したり、文章の構成や展開，表現の仕方を踏まえ，解釈の多様性について考察したりできているか。 ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に，自分のものの見方，感じ方，考え方を深めることができているか。	定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等
③主体的に学習に取り組む態度	・文章の種類を踏まえて，内容や構成，展開，描写の仕方などを的確に捉えようとしているか。 ・文学的な文章を読むことを通して，我が国の言語文化の特質について理解を深めようとしているか。 ・人間，社会，自然などに対するものの見方，感じ方，考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めようとしているか。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・授業に臨むに当たって、読みなどの予習は最低限やっておいて下さい。
・漢字や語句の意味調べも、事前にできる限りやっておきましょう。
・授業には積極的に参加し、分からなかった部分は質問して、解決しましょう。
・提出物の期限は、厳守してください。
・日ごろから小説や詩歌などを読む習慣を身につけましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	1 随想・評論（一）	十八歳の選択（朝井リョウ） 【読む】内容、構成、展開、描写などをとらえ解釈する。 【書く】構成、表現などを工夫して、文学的文章を書く。		
	5	2 小説（一） 3 小説（二）	旅する本（石田衣良） 【読む】自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。 山月記（中島敦） 【読む】内容、構成、展開、描写などをとらえ解釈する。		
	6	3 小説（二）	山月記（中島敦） 【読む】内容、構成、展開、描写などをとらえ解釈する。		
	7	9 詩・短歌・俳句	短歌十三首　俳句十五句 【書く】心情を描写する。		
第2学期	9	4 小説（三）	山椒魚（井伏鱒二） 【読む】解釈を共有し、その多様性について考える。		
	10	5 随想・評論（二）	浄瑠璃寺の春（堀辰雄） 【書く】情景を描写する。		
	11	6 小説（四）	こころ（夏目漱石） 【読む】他作品などと比較し、文体の特徴や効果を考えたり、解釈を深めたりする。		
	12	6 小説（四）	こころ（夏目漱石） 【読む】他作品などと比較し、文体の特徴や効果を考えたり、解釈を深めたりする。		
第3学期	1	7 小説（五）	美神（三島由紀夫） 【読む】内容、構成、展開、描写などをとらえ解釈する。		
	2	7 小説（五）	アルプスの少女（石川淳） 【読む】他作品などと比較し、文体の特徴や効果を考えたり、解釈を深めたりする。		
	3	9 詩・短歌・俳句	竹（萩原朔太郎） 小景異情（室生犀星） 永訣の朝（宮沢賢治） 【読む】内容、構成、展開、描写などをとらえ解釈する。 【書く】心情を描写する。		

【国語科　シラバス】

科目名	古典探究			使用教材	教科書	精選　古典探究（大修館書店）
学　年	2	単位数	3		副教材	学習課題ノート（大修館書店） 完全マスター古典文法（第一学習社） 徹底理解高校漢文（東京書籍）
科・コース	普通科　特別選抜進学コース・特別進学コース					

【授業の概要】

古典などを読んで，我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めたり，先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で伝え合う力を高めたり，生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させたりすることを目指します。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のうち、「読むこと」の配当時間のみの科目です。

【学習方法と授業の進め方】

古典としての古文及び漢文、日本漢文を扱います。文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などを学び、作品や文章の歴史的・文化的背景などへの理解を深めます。また、異なる時代に成立した随筆や小説，物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動を行います。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し，古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしているか。 ・古典の作品や文章に表れている，言葉の響きやリズム，修辞などの表現の特色について理解を深めているか。 ・古典などを読むことを通して，我が国の文化の特質や，我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めているか。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めているか。	定期考査、授業中の小テスト等
②思考・判断・表現	・文章の種類を踏まえて，構成や展開などを的確に捉えているか。 ・文章の種類を踏まえて，古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えているか。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み，その内容の解釈を深め，作品の価値について考察できたか。 ・古典の作品や文章について，内容や解釈を自分の知見と結び付け，考えを広げたり深めたりすることができたか。 ・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して，我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。	定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等
③主体的に学習に取り組む態度	・進んで古典に用いられている語句の意味や用法を理解し，古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしようとしているか。 ・進んで作品の成立した背景や 他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み，その内容の解釈を深め，作品の価値について考察しようとすることができたか。 ・進んで文語のきまりや古典特有の表現、漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しをもって古典を学ぶ意義について考えを持とうとしているか。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・授業に臨むに当たって、読み、意味調べなどの予習は最低限やっておきましょう。
・こまめに辞書を引く習慣を身につけましょう。
・提出物の期限は厳守しましょう。
・積極的に読書をし、生活や人生について考えを深めましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	古典文法の確認 古文編Ⅰ　1説話	・1年次の学習内容の復習 【読むこと】宇治拾遺物語「検非違使忠明のこと」 語句の意味を理解し、文脈に沿って正しく読もう。		
	5	漢文編Ⅰ　1故事・逸話	【読むこと】「画竜点睛」、「糟糠之妻」 性格に書き下そう。 故事成語の意味や、その派生について理解しよう。	5	
	6	古文編Ⅰ　2随筆（一）	【読むこと】徒然草「家居のつきづきしく」 方丈記「安元の大火」 作者のものの見方、感じ方、考え方をとらえよう。 助詞、助動詞を理解しよう。	11	
	7	漢文編Ⅰ　2漢詩	【読むこと】「竹里館」「咸陽城東楼」 繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わおう。 近体詩の形式や技法を理解しよう。		
第2学期	9	古文編Ⅰ　3物語（一） 古文編Ⅰ　7物語（三）	【読むこと】伊勢物語「月やあらぬ」 大鏡「競べ弓」 歌物語、歴史物語の特徴を理解しよう。 古文の敬語法についての理解を深めよう。		
	10	漢文編Ⅰ　3史伝	【読むこと】史記「鴻門の会」 長文の漢文に読み慣れよう。 劇的に展開する史実を正確に読み取り味わおう。		
	11	古文編Ⅰ　6日記	【読むこと】土佐日記「羽根」、更級日記「門出」 当時の人々の生活や文化について認識を深めよう。 文法知識を身につけ、文脈を的確に理解しよう。		
	12	漢文編Ⅰ　4文章	【読むこと】「桃花源記」 文章の構成や展開を正しく理解しよう。 作者の社会観、歴史観を読み取ろう。	16	
第3学期	1	古文編Ⅰ　5物語（二）	【読むこと】源氏物語「桐壺」 登場人物の人間関係を正確に把握し、心の動きを理解しよう。 作品の時代背景や文化的環境についても認識を深めよう。	5	
	2	漢文編Ⅰ　5思想	【読むこと】「論語」「孟子」「荀子」 古代中国の思想家たちの様々な考え方を理解しよう。 既習の知識を生かし、正確に読解しよう。		
	3	古文編Ⅰ　8和歌・歌謡・歌論 文法事項のまとめ	【読むこと】和歌 和歌のきまりを理解し、それぞれの作者の歌風を鑑賞しよう。 二年時に学習した古典文法の確認と応用		

【国語科　シラバス】

科目名	古典探究			使用教材	教科書	精選　古典探究（大修館書店）
学　年	2	単位数	2		副教材	学習課題ノート（大修館書店） 完全マスター古典文法（第一学習社） 徹底理解高校漢文（東京書籍）
科・コース	普通科　特別進学国際コース					

【授業の概要】

古典などを読んで，我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めたり，先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で伝え合う力を高めたり，生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させたりすることを目指します。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のうち、「読むこと」の配当時間のみの科目です。

【学習方法と授業の進め方】

古典としての古文及び漢文、日本漢文を扱います。文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などを学び、作品や文章の歴史的・文化的背景などへの理解を深めます。また、異なる時代に成立した随筆や小説，物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動を行います。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し，古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしているか。 ・古典の作品や文章に表れている，言葉の響きやリズム，修辞などの表現の特色について理解を深めているか。 ・古典などを読むことを通して，我が国の文化の特質や，我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めているか。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めているか。	定期考査、授業中の小テスト等
②思考・判断・表現	・文章の種類を踏まえて，構成や展開などを的確に捉えているか。 ・文章の種類を踏まえて，古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えているか。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み，その内容の解釈を深め，作品の価値について考察できたか。 ・古典の作品や文章について，内容や解釈を自分の知見と結び付け，考えを広げたり深めたりすることができたか。 ・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して，我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。	定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等
③主体的に学習に取り組む態度	・進んで古典に用いられている語句の意味や用法を理解し，古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしようとしているか。 ・進んで作品の成立した背景や 他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み，その内容の解釈を深め，作品の価値について考察しようとすることができたか。 ・進んで文語のきまりや古典特有の表現、漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しをもって古典を学ぶ意義について考えを持とうとしているか。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・授業に臨むに当たって、読み、意味調べなどの予習は最低限やっておきましょう。
・こまめに辞書を引く習慣を身につけましょう。
・提出物の期限は厳守しましょう。
・積極的に読書をし、生活や人生について考えを深めましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	古典文法の確認 古文編Ⅰ　1説話	・1年次の学習内容の復習 【読むこと】宇治拾遺物語「検非違使忠明のこと」 語句の意味を理解し、文脈に沿って正しく読もう。		
	5	漢文編Ⅰ　1故事・逸話	【読むこと】「画竜点睛」、「糟糠之妻」 性格に書き下そう。 故事成語の意味や、その派生について理解しよう。	5	
	6	古文編Ⅰ　2随筆（一）	【読むこと】徒然草「家居のつきづきしく」 方丈記「安元の大火」 作者のものの見方、感じ方、考え方をとらえよう。 助詞、助動詞を理解しよう。	11	
	7	漢文編Ⅰ　2漢詩	【読むこと】「竹里館」「咸陽城東楼」 繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わおう。 近体詩の形式や技法を理解しよう。		
第2学期	9	古文編Ⅰ　3物語（一） 古文編Ⅰ　7物語（三）	【読むこと】伊勢物語「月やあらぬ」 大鏡「競べ弓」 歌物語、歴史物語の特徴を理解しよう。 古文の敬語法についての理解を深めよう。		
	10	漢文編Ⅰ　3史伝	【読むこと】史記「鴻門の会」 長文の漢文に読み慣れよう。 劇的に展開する史実を正確に読み取り味わおう。		
	11	古文編Ⅰ　6日記	【読むこと】土佐日記「羽根」、更級日記「門出」 当時の人々の生活や文化について認識を深めよう。 文法知識を身につけ、文脈を的確に理解しよう。		
	12	漢文編Ⅰ　4文章	【読むこと】「桃花源記」 文章の構成や展開を正しく理解しよう。 作者の社会観、歴史観を読み取ろう。	16	
第3学期	1	古文編Ⅰ　5物語（二）	【読むこと】源氏物語「桐壺」 登場人物の人間関係を正確に把握し、心の動きを理解しよう。 作品の時代背景や文化的環境についても認識を深めよう。	5	
	2	漢文編Ⅰ　5思想	【読むこと】「論語」「孟子」「荀子」 古代中国の思想家たちの様々な考え方を理解しよう。 既習の知識を生かし、正確に読解しよう。		
	3	古文編Ⅰ　8和歌・歌謡・歌論 文法事項のまとめ	【読むこと】和歌 和歌のきまりを理解し、それぞれの作者の歌風を鑑賞しよう。 二年時に学習した古典文法の確認と応用		

【国語科　シラバス】

科目名	論理国語			使用教材	教科書	論理国語（大修館書店）
学　年	2	単位数	2		副教材	学習課題ノート（大修館書店）
科・コース	普通科　特別進学選抜コース　特別進学コース　特別進学国際コース					

【授業の概要】

国語で主体的・対話的で深い学びをとおして、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的に考えたり批判的に読んだりする力・他者に共感する力・想像する力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高める態度を育てます。また、言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけるとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度を養い、他者や社会に対する関心を育む態度を育てます。

【学習方法と授業の進め方】

第２学年では第Ⅰ部を学習し、基礎的な論理的思考力を育みます。言語・芸術・共同体・科学など評論を理解する上で欠かすことのできない概念を【読むこと】【書くこと】の学習を通して理解することを目指します。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすることができているか。 ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができているか。また文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など，文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができているか。 ・主張とその前提や反証 など情報と情報との関係について理解を深めることができているか。	定期考査、授業中の小テスト等
②思考・判断・表現	・立場の異なる読み手を説得するために，批判的に読まれることを想定して，効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができているか。 ・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり，根拠や論拠の吟味を重ねたりして，主張を明確にすることができているか。 ・個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど，文章全体の論理の明晰さを確かめ，自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫しているか。	定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等
③主体的に学習に取り組む態度	・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしているか。 ・人間，社会，自然などについて，文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて，新たな観点から自分の考えを深めることができているか。 ・設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に，必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができているか。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・授業に臨むに当たって、読みなどの予習は最低限やっておいて下さい。
・漢字や語句の意味調べも、事前にできる限りやっておきましょう。
・授業には積極的に参加し、分からなかった部分は質問して、解決しましょう。
・提出物の期限は、厳守してください。
・日ごろから新聞などを読む習慣を身につけましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	1 世界・言葉・私	世界を広げる「批評」の言葉（宇野常寛） 【読む】前提・含意を確認する。		
	5	2 芸術と文化	ミロのヴィーナス（清岡卓行） 【読む】前提・含意を確認する。 【書く】具体的・抽象的に書く。		
	6	3 共同体のいま	家族化するペット（山田昌弘)。 【読む】考えを述べる コミュニティから見た日本（広井良典） 【書く】統計資料から分析したことを書く	4	
	7	4 科学の可能性	自己をモデル化する知能（石黒浩） 【読む】前提・含意を確認する。 【書く】立場を明確にして書く		
第2学期	9	4 科学の可能性	人工知能の可能性と罠（西垣通） 【読む】考えを述べる		
	10	5 日本語の多様性	「方言コスプレ」現象（田中ゆかり） 【読む】複数の資料を比較する 【書く】図版を分析して書く		
	11	6 思考の枠組み	「スキーマと記憶」(今井むつみ） 【読む】調査する 【書く】図版を分析して書く		
	12	6 思考の枠組み	デジタル地図から見える世界（松岡慧祐） 【読む】複数の資料を比較する		
第3学期	1	7 社会の原点	社会的実在としての言語・法・貨幣（岩井克人） 【読む】前提・含意を確認する		
	2	8 グローバル化の先へ	心に「海」を持って（山崎正和） 【読む】考えを述べる 【書く】調べたことをレポートにまとめる		
	3	8 グローバル化の先へ	グローバリゼーションと文化（渡辺靖） 【読む】考えを述べる	4	

【地歴科　シラバス】

科目名	世界史探究			使用教材	教科書	世界史探究『詳説世界史』(山川出版社)
学　年	2	単位数	3		副教材	ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）
科・コース	普通科　特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース					

【授業の概要】

・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。
・諸外国の国際事情や宗教事情を含めた授業で、文化の多様性や現代社会の特質を広い視野から考察し、国際理解や国際感覚を身につけるようにします。

【学習方法と授業の進め方】

・基本的には、教科書中心の授業になります。必要に応じて、プリント・動画などをとり入れた授業も行います。諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し、世界の歴史の大きな枠組みと流れを我が国の歴史と関連付けながら考察します。歴史は丸暗記をするだけの科目ではないので、５Ｗ１Ｈを意識して、歴史的事象を時期や推移に着目し、類似や差異などを明確にし、事象同士の因果関係などで関連付けて多角的・多面的な理解を深めます。

【学習評価】

定期考査及び下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事情について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているか。 ・諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけることができたか。 ・課題やレポート作成において、的確に表現する方法を習得しているか。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・ワークや問題集 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況
②思考・判断・表現	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代社会とのつながりなどに着目できたか。 ・歴史的概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができたか。 ・自分と違う考え方の人と話し合うことでより深く考察することができたか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・ワークや問題集 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況
③主体的に学習に取り組む態度	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うことができたか。 ・多面的・多角的屋考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができたか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・討論や発表 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・世界史は、個々の国や地域について時代順に追っていく「縦」と、世界全体の動きや出来事を同時代ごとに見ていく「横」、両方の視点が必要になります。したがって、教科書に載っている人物名や年号、事件などといった用語を覚えるということではなく、「歴史の流れ」や「原因と結果」をつかむようにして下さい。単に歴史的事項を暗記するのではなく、当時の社会状況と結びつけて捉えることが重要です。諸資料を活用し多面的・多角的に考察しましょう。
・ノート作りは、単に板書事項を書き写すのではなく、話の内容もメモを取る習慣を身につけましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	**第１章** **文明の成立と古代文明の特質** 文明の誕生	○自然環境の変化と農耕・牧畜の開始との関係 ○おもな古代文明の立地と文明が生まれるための条件 ○オリエントの風土とその文明の歴史的特質 ○メソポタミア文明、エジプト王国 ○シリア・パレスチナ地方での民族の興亡	4 10	
	5	古代オリエント文明とその周辺 南アジアの古代文明 **第２章** **中央ユーラシアと東アジア世界** 中国の古代文明	○クレタ文明とミケーネ文明 ○アッシリアによるオリエントの統一 ○インダス文明 ○アーリヤ人の進入が南アジアにもたらした変化 ○殷と周の支配形態の比較 ○春秋時代と戦国時代の比較 ○戦国時代の社会	4 10	
	6	南北アメリカ文明 中央ユーラシア～草原とオアシスの世界 秦・漢帝国 中国の動乱と変容	○北米と南米の先住民社会の比較、中南米の先住民文明 ○遊牧国家の興亡、オアシス民と遊牧民の関係 ○新たに現れた「皇帝」の特質と「王」との比較 ○漢の支配体制の変遷 ○統一国家の出現が社会や文化に与えた影響 ○遊牧民の動きと魏晋南北朝の動乱との関係 ○魏晋南北朝時代の宗教 ○魏晋南北朝時代の中国の情勢と朝鮮と日本への影響	4 10	
	7	東アジア文化圏の形成 **第３章** **南アジア世界と東南アジア世界の展開** 仏教の成立と南アジアの統一国家 インド古典文化とヒンドゥー教の定着	○唐の勢力圏の広がり、唐代初期の社会の特徴 ○安史の乱前後の等の制度や社会の変化 ○突厥・ウイグルと隋・唐の関係 ○仏教やジャイナ教などの新たな宗教の共通点 ○マウリヤ朝のもとでの仏教の発展 ○クシャーナ朝と周辺諸地域 ○グプタ朝における宗教や文化 ○ヒンドゥー教が南アジア社会の根付いていった背景	4 10	
第2学期	9	東南アジア世界の形成と展開 **第４章** **西アジアと地中海周辺の国家形成** イラン諸国家の興亡とイラン文明 ギリシア人の都市国家 ローマと地中海支配 キリスト教の成立の発展	○東南アジアにおける国家形成の特徴 ○アケメネス朝の中央集権的支配 ○パルティアとササン朝の繁栄、東西の文明の間で担った役割 ○ポリスの特徴と人々の生活、スパルタの軍国主義 ○民主政発達の経緯と現代民主主義との相違点 ○ヘレニズム時代の歴史的意義 ○ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響 ○ローマ共和政の特徴、地中海における領土拡大 ○「ローマの平和」が地中海政界に与えた影響 ○ローマ帝国の危機、ローマ帝国の文化的意義 ○キリスト教の成立の経緯、ローマ帝国によるキリスト教への対応	4 10	
	10	**第５章** **イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成** アラブの大征服とイスラーム政権の成立	○アラブ＝ムスリム軍による大征服の展開 ○ウマイヤ朝の支配の特徴 ○アッバース朝の統治の特徴 ○イスラーム文化の成立の拝啓と特徴 ○イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響	5 10	

		ヨーロッパ世界の形成	○ビザンツ帝国の繁栄 ○ローマ教会とフランク王国の関係、カールの戴冠 ○封建社会の仕組み	4	
	11	**第６章** **イスラーム教の伝播と西アジアの動向** イスラーム教の諸地域への伝播 西アジアの動向	○中央アジア・南アジア・東南アジア、アフリカにおけるイスラーム化 ○トルコ人の西アジア進出 ○十字軍やモンゴルの進出がもたらした西アジアへの影響 ○マムルーク朝の繁栄○イベリア半島におけるイスラーム勢力の興亡	5 10	
	12	**第７章** **ヨーロッパ世界の変容と展開** 西ヨーロッパの封建社会とその展開 東ヨーロッパ世界の展開 西ヨーロッパ世界の変容 西ヨーロッパの中世文化	○ローマ＝カトリック教会の権威 ○十字軍の遠征の経緯と社会に与えた影響 ○西ヨーロッパでの商業の繁栄、中世の都市 ○ビザンツ帝国の衰退の要因 ○ビザンツ文化の果たした世界史的な意義 ○封建社会の解体、教皇権の衰退と王権の伸張 ○身分制議会の成立と王権の伸張、百年戦争 ○キリスト教が果たした文化的役割 ○中世の西ヨーロッパの美術や文学	4	
第３学期	1	**第８章** **東アジア世界の展開とモンゴル帝国** アジア諸地域の自立化と宋 モンゴルの大帝国	○宋の対外関係の特徴、宋代の社会や経済の発展、宋代の文化 ○モンゴル帝国の成立と支配、モンゴル帝国時代の東西交流、帝国の解体 ○ティムール朝		
	2	**第９章　大交易・大交流の時代** アジア交易世界の興隆 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 **第 10 章　アジアの諸帝国の繁栄** オスマン帝国とサファヴィー朝 ムガル帝国の興隆 清代の中国と隣接諸地域	○明朝初期の国内統治の特徴、明朝の商工関係 ○明代康貴の中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化 ○ヨーロッパの人々の遠洋進出 ○スペインによる中南米征服、世界の一体化 ○オスマン帝国の勢力拡大とその統治 ○サファヴィー朝の支配とイラン世界 ○ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係、ムガル帝国の衰退 ○清代における周辺諸国との中国との関係 ○漢人の社会や文化と清朝の態度		
	3	**第 11 章** **近世ヨーロッパ世界の動向** ルネサンス 宗教改革 主権国家体制の成立 オランダ・イギリス・フランスの台頭 北欧・東欧の動向	 ○ルネサンスの担い手、ルネサンスを支えた精神の特徴、ルネサンスの成果と後世への影響 ○ルターの宗教改革、カルヴァンの教えの特徴、イギリス国教会の成立の意義、カトリック改革 ○主権国家体制の成立の経緯、16 世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係、ウェストファリア条約 ○17 世紀のオランダの経済的な覇権とその衰退、17 世紀の２つのイギリスの革命、近世フランスの強みと課題、イギリスとフランスの覇権争い ○主権国家体制におけるポーランドとスウェーデンの占めた位置、ロシアの主権国家体制への参入、プロイセンとオーストリア、啓蒙専制主義	4 10	

【地歴科　シラバス】

科目名	日本史探究			使用教材	教科書	日本史探究『詳説日本史』(山川出版社)
学　年	2	単位数	3		副教材	詳説日本史図録（山川出版社）
科・コース	普通科　特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース					

【授業の概要】

日本史探究は、「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目です。社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ってグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質を・能力を育成すること目指します。

【学習方法と授業の進め方】

大学入試で合格点を取れるレベルを目指して授業を進めます。共通テスト７割以上の得点が取れるようになるためには、教科書の本文を、歴史の流れを重視して、事件・出来事等の５Ｗ１Ｈを理解し体系的に理解することが必要です。
日本史探究は、３年次に引き続き３単位で学習する科目です。そのため２年次では、原始・古代から戦国時代までの範囲を時代順に学習していきます。授業前に必ず教科書を読んで、授業範囲の理解を深めておきましょう。詳説日本史１０分間テストや要点整理ゼミナールの問題を自力で解ける実力を身につけることを目標にして取り組んでください。

【学習評価】

定期考査及び下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・知識理解について、歴史の基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか ・歴史の変化・発展の背景には原因・結果の法則があることを理解できたか。 ・諸資料を活用して的確な情報の収集・選択および読み取り、理解できたか。 ・戦国時代までの日本が形成される歴史的過程と生活・文化や地域的特色について基本的な事柄を理解できたか。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・ノートの作成状況 ・発問評価 ・提出課題への取り組みや提出状況
②思考・判断・表現	・歴史の変化・発展の背景には原因・結果の法則があることを説明できるか。 ・諸資料の扱いについて、適切な情報を収集・選択・活用を通じて歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し多面的・多角的に考察した過程や結果を適切に表現できているか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・ノートの作成状況 ・発問評価 ・提出課題への取り組み ・発表・レポート等の提出
③主体的に学習に取り組む態度	・歴史の流れや事象に興味を持ち、意欲的な態度で学習しているか ・自分と違う考え方の人と積極的に話し合うことで多面的なものの見方・考え方を理解・考察し、歴史的なもの見方を身につけることができたか。 ・現代社会の身近な諸問題と関連付けて、社会的事象の歴史的な背景を理解し、言語活動等を通じて論理的に探究しようとする態度が見についたか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・授業態度 ・ノートの作成状況 ・討論や発表やレポート提出 ・提出課題への取り組み

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・予習　教科書を読み、どんなことを学ぶのかを把握する。家庭で予習し、まずは、わからないところを知る。
・授業　授業で学ぶ知識には構造があるので、丸暗記ではなく、関連性を持たせて理解する。
・復習　歴史の流れや原因・結果を考えながら教科書を読み、学んだことをその日のうちに理解する。わからないところは自ら調べ、友達や先生に質問する。
・演習　教科書の理解を深めるために、詳説日本史１０分間テストや要点整理ゼミナールを単元終了ごとに活用する自宅で問題集を使って基礎・基本の定着や実力養成をはかること。
・ノート　ノートは第２の記憶。早く見やすく書く。板書以外の口頭説明も必要に応じてメモをとると理解に役立つ。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	第1章日本文化のあけぼの 1文化の始まり 2農耕社会の成立	・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の形成を理解する。 ・大陸からの稲作伝播により、弥生文化の形成や原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。	13 2	
	5	第2章古墳とヤマト政権 1古墳文化の展開 2飛鳥の朝廷	・中国の歴史書の記事をもとに、日本列島の倭の小国やヤマト政権（倭国）と中国・朝鮮半島の諸国との交流について、多面的・多角的に考察する。 ・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。	4	
	6	第3章律令国家の形成 1律令国家への道 2平城京の時代	・律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ・律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。		
	7	3律令国家の文化 4律令国家の変容	・白鳳文化の形成過程や天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解するの ・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する	4	
第2学期	9	第4章貴族政治の展開 1摂関政治	・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ・日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。		
	10	2国風文化 3地方政治の展開と武士	・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ・律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。		
	11	第5章院政と武士の躍進 1院政の始まり 2院政と平氏政権	・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。		
	12	第6章武家政権の成立 1鎌倉幕府の成立 2武士の社会	・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ・承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。	2 5	
第3学期	1	3モンゴル来襲と幕府の衰退 4鎌倉文化	・モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。		
	2	第7章武家社会の成長 1室町幕府の成立 2幕府の衰退と庶民の台頭	・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ・庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。	10 2 13	
	3	3室町文化 4戦国大名の登場	・武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。		

【地歴科　シラバス】

科目名	地理総合			使用教材	教科書	高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）
学　年	2	単位数	2		副教材	高等学校新地理総合ノート（帝国書院）
科・コース	普通科　特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース・進学コース　　総合ビジネス科					

【授業の概要】

社会で役立つ実用的な資質・能力を身につける新科目として必履修化され、以下のことを目的としている科目です。
・持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関りに着目して現代の地理的な諸課題を考察します。
・グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察します。
・地図や地理情報システムなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得することを目指します。

【学習方法と授業の進め方】

・授業は基本的には講義及び対話形式です。教科書と準拠ノートを中心にすすめます。
・教科書の図や地図帳、デジタル教材を通して、図や統計資料から何が読み取れるのか、その力を養います。
・必要に応じて動画などの視聴覚教材やプリントを使用した授業を実施します。
・単元によっては、ペアワークやグループワークなどによる授業展開や他の科目と関連付けた学習を実施します。

【学習評価】

定期考査及び下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解できたか。 ・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ「効果的に調べまとめる技能が身に付いたか。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・準拠ノート ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況
②思考・判断・表現	・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できたか。 ・地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができたか。	・定期考査の思考・応用問題（統計資料読解・論述問題） ・準拠ノート ・課題プリントやレポートへの取り組み ・ノートの作成状況
③主体的に学習に取り組む態度	・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うことができたか。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めることができたか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・討論や発表 ・課題プリントやレポートへの取り組み ・ノートの作成状況

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・日常的に新聞やテレビのニュース・報道番組に興味を持つことから始めましょう。
・地図や統計資料を見る、考える、プリントに取り組むなどすべての作業が学習です。常に主体的に大切に取り組みましょう。
・ノートは板書をそのまま書き写すだけでなく、ポイント等がわかりやすいように話の内容もメモをとりましょう。
・提出物は、提出期限を守って下さい。また、丁寧に前向きにしっかり取り組みましょう。
・授業に集中し、積極的・主体的に臨みましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	**第１部** **地図でとらえる現代世界** **第１章　地図と地理情報システム** 地図上の位置と時差 地図の役割と種類 **第２章結びつきを深める現代世界** 現代世界の国家と領域	○地球上の位置の違いは、私たちの生活にどのような影響を与えているか。また、時差は私たちの生活とどのように結びついているか。 ○地図や地理情報システムにはどのような役割や種類があるのか。また、私たちの生活にどのように役立っているのか。 ○国家の領域や国境はどのように定まっているのか。また、日本の位置や領域にはどのような特徴があるのか。		
	5	グローバル化する世界 **第２部** **国際理解と国際協力** **第１章　生活文化の多様性と国際理解** 生活文化の多様性 世界の地形と人々の生活	○世界の国々は、貿易や交通、通信、観光などの要素によってどのように結びついているのか。 ○地球上の多様な地形と人々はどのように関わり合っているのか。世界各地でどのような生活が営まれているのか。	16 17	
	6	世界の気候と人々の生活	○人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わりあっているのか。世界各地ではどのような生活が営まれているのか。	13 14 15	
	7	乾燥した大陸と太平洋の島々での生活 モンスーンの影響を受ける地域での生活 世界の言語・宗教と人々の生活 イスラームと人々の生活の関わり ヒンドゥー教と人々の生活と関わり	○オセアニアは、地形や気候が多様であり、このような自然環境を生かしてどのような生活文化や産業が育まれてきたのか。 ○季節風の影響を強く受けてきた東南アジアでは、気候を生かして、どのような生活文化が育まれてきたのか。 ○言語や宗教は、人々の生活にどのような影響を与えているのか。 ○中央アジアから北アフリカにかけての地域の生活文化は、イスラームからどのような影響を受けているのか。 ○インドの人々の暮らしに、ヒンドゥー教はどのように関わっているのか。		
第2学期	9	歴史的背景と人々の生活 移民の歴史と人々の生活の関わり 植民地支配の歴史と人々の生活の関わり 国家体制の変化と人々の生活の関わり 世界の産業と人々の生活	○世界各地の多様な環境の下で育まれてきた生活文化は、歴史的な出来事の積み重ねにより、どのような影響を受け変化を遂げてきたのか。 ○さまざまな地域の人々が移り住んできたラテンアメリカでは、多様な文化の融合によって、どのような生活文化が形成されてきたのか。 ○植民地支配を受けた国が多いサハラ以南アフリカでは、植民地支配の歴史と人々の生活文化や産業は、どのように関わり合っているか。 ○かつて社会主義国だったロシアで、国家体制の変化が､人々の生活や社会にどのような変化を与えたのか。 ○地域の自然環境などを生かした産業の発展は、人々の生活にどのような影響を与えてきたのか。産業のグローバル化によって、人々の生活はどのように変化してきたのか。	8 9 10 15	
	10	産業力が世界の生活文化に与える影響 経済成長による人々の生活の変化 地域統合が人々の生活や産業に与える影響 **第２章　地球的課題と国際協力** 複雑に絡み合う地球的課題	○世界標準の工業製品が生み出されたり、世界の食を支える農産物が生産されたりしているアメリカ合衆国の産業は、人々の生活にどのような影響を与えているのか。 ○第二次世界大戦後に急速に経済成長が進んだ中国や韓国などでは、どのような生活文化がみられ、経済成長の影響を受けてどのように変化しているのか。 ○ＥＵの統合によって、ヨーロッパの人々の生活文化はどのように変化してきたのか。	8 9 10 15	

		地球環境問題	○現代世界に存在するさまざまな地球的課題の背景には何があるのか。課題の解決に向けて私達には何ができるのか。 ○人間の経済活動などにより、世界ではどのような地球環境問題がみられ、どのような取り組みが行われているのか。	13 14 15	
	11	資源・エネルギー問題 人口問題	○世界の資源やエネルギーの利用にはどのような課題があるのか。持続可能なエネルギーの利用方法とはどのようなものか。 ○世界には、国や地域によってどのような人口問題があり、どのような対策が行われているのか。	7 8 9 10	
	12	食料問題 都市・居住問題	○飢餓や飽食のような食糧需給の偏りが生じるのはなぜか。食料問題を解決するためには、どのような取り組みが必要か。 ○世界には、国や地域によってどのような都市・居住問題があり、どのような対策が行われているのか。	2 11	
第3学期	1	**第３部** **持続可能な地域づくりと私たち** **第１章　自然環境と防災** 日本の自然環境 地震・津波と防災 火山災害と防災	○日本の地形や気候には、どのような特徴があるのか。 ○地震や津波は、どのような被害をもたらすのか。地震や津波の発生に備えて、どのような取り組みが必要なのか。 ○火山はどのような恵みや災害をもたらすのか。火山災害に備えて、どのような取り組みが必要か。	11 13	
	2	気象災害と防災 自然災害への備え	○気象災害にはどのような種類があり、どのような被害をもたらすのか。気象災害に備えて、どのような取り組みが必要か。 ○自然災害への日頃の備えには、どのようなものがあるのか。災害発生時の危機管理体制は、どのように整備されているのか。	11 13	
	3	**第２章** **生活圏の調査と地域の展望** 生活圏の調査と地域の展望	○生活圏の抱える地域的課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望をみいだしていけばよいのか。		

数学科シラバス（普通科特進国際コース）

科目名	数学演習			使用教材	教科書	数学Ⅰ、数学A（数研出版）
学　年	2	単位数	3		副教材	クリアー数学Ⅰ＋A（数研出版）

【授業の概要】

特別進学国際コースの数学演習では、演習問題を通して大学入試に対応できる力を育成します。数学Ⅰ・Aのすべての内容について復習した後で、共通テスト対策を含めた大学入試対策を行っていきます。

【学習方法と授業の進め方】

授業では教科書、問題集、その他必要に応じてプリントを使用します。理解していることを前提に進むので、必ず教科書の該当範囲を予習しておいてください。また、問題演習やプリント学習では教科書の範囲にとどまらず、入試問題や全国模試の問題を扱うので、そのレベルに照準を合わせるように常に意識して学習しましょう。

【学習評価】

年５回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

【留意事項】

教科書（授業用）のノートと、問題集（演習用）のノートを２冊準備してください。

【予習】　事前に教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いておく。
【授業】　予習でわからなかったところを授業中に解決するつもりで臨む。
【復習】　自分の手で何度も解きなおす。宿題以外に問題集を各自解き進めておく。

【ノートの取り方】　後で見たときにどんな学習をしたかわかるような取り方をする。
予習のときにスペースを多めにとり、あとで注意事項を書き込めるようにするとよい。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	＜数学Ⅰ・A＞ ・数と式 式の計算	多項式　多項式の加法減法および乗法　因数分解 実数　根号を含む式の計算　一次不等式	4	
	5	・集合と命題 ・２次関数 ２次関数のグラフ	集合　命題と条件　命題と証明 関数とグラフ　２次関数のグラフ ２次関数の最大最小　２次関数の決定 ２次方程式　グラフと２次方程式		
	6	２次方程式と２次不等式 ・図形と計量 三角比	グラフと２次不等式 三角比　三角比の相互関係　三角比の拡張 正弦定理　余弦定理　三角形の面積　図形の応用	9	
	7	・データの分析	データの整理　データの代表値 データの散らばりと四分位範囲　分散と標準偏差 ２つの変数の間の関係　仮説検定の考え方		
第2学期	9	・場合の数と確率 場合の数 確率	集合の要素の個数　場合の数 順列　円順列・重複順列　組み合わせ 事象と確率　確率の基本性質　独立な試行の確率	4	
	10	・図形の性質 平面図形 空間図形	三角形の辺の比　三角形の外心、内心、重心 チェバの定理、メネラウスの定理 円に内接する四角形　円と直線　方べきの定理		
	11	・数学と人間の活動	倍数と約数　素数と素因数分解 最大公約数、最小公倍数　整数の割り算 ユークリッドの互除法　一次不定方程式		
	12	入試対策演習	入試対策演習		
第3学期	1	入試対策演習	入試対策演習		
	2	入試対策演習	入試対策演習		
	3	入試対策演習	入試対策演習		

数学科シラバス（普通科特進選抜コース文系・普通科特進コース文系）

科目名	数学Ⅱ			使用教材	教科書	数学Ⅱ（数研出版）
学　年	2	単位数	3		副教材	4step 数学Ⅱ＋B（特進選抜） クリアー数学Ⅱ＋B（特進）

【授業の概要】

高校の数学はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・Cの６科目ありますが、特進選抜コース・特進コースでは数研出版の教科書を用いて授業を進めます。数学Ⅱでは、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微積分など、数学ⅠAより発展的な内容を学習します。

【学習方法と授業の進め方】

授業では教科書、問題集、その他必要に応じてプリントを使用します。理解していることを前提に進むので、必ず教科書の該当範囲を予習しておいてください。また、問題演習やプリント学習では教科書の範囲にとどまらず、入試問題や全国模試の問題を扱うので、そのレベルに照準を合わせるように常に意識して学習しましょう。

【学習評価】

年５回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

【留意事項】

教科書（授業用）のノートと、問題集（演習用）のノートを２冊準備してください。

【予習】　事前に教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いておく。
【授業】　予習でわからなかったところを授業中に解決するつもりで臨む。
【復習】　自分の手で何度も解きなおす。宿題以外に問題集を各自解き進めておく。

【ノートの取り方】　後で見たときにどんな学習をしたかわかるような取り方をする。
予習のときにスペースを多めにとり、あとで注意事項を書き込めるようにするとよい。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	＜数学Ⅱ＞ ・複素数と方程式	複素数　２次方程式の解と判別式　解と係数の関係 剰余の定理と因数定理　高次方程式	4	
	5	・図形と方程式 点と直線 円	直線上の点　平面上の点 直線の方程式　２直線の関係 円の方程式　円と直線		
	6	軌跡と領域	２つの円 軌跡と方程式 不等式の表す領域		
	7	・三角関数 三角関数	一般角と弧度法 三角関数	9	
第2学期	9	加法定理	三角関数の性質　三角関数のグラフ 三角関数の応用 加法定理		
	10	・指数関数と対数関数 指数関数	加法定理の応用　三角関数の合成 指数の拡張 指数関数		
	11	対数関数 ・微分法と積分法	対数とその性質　対数関数 常用対数 微分係数		
	12	微分係数と導関数 導関数の応用	導関数 接線		
第3学期	1		関数の値の変化 最大値・最小値 関数のグラフと方程式・不等式		
	2	積分法	不定積分 定積分		
	3		面積		

数学科シラバス（普通科特進選抜コース文系・普通科特進コース文系）

科目名	数学Ｂ			使用教材	教科書	数学Ｂ、数学Ｃ（数研出版）
学　年	2	単位数	2		副教材	4step 数学Ⅱ＋Ｂ、数学Ｃ（特進選抜） クリアー数学Ⅱ＋Ｂ、数学Ｃ（特進）

【授業の概要】

高校の数学はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ａ・Ｂ・Ｃの６科目ありますが、特進選抜コース・特進コースでは数学Ｂ、数学Ｃの内容を数研出版の教科書を用いて授業を進めます。数学Ｂでは数列、統計を、数学Ｃでは平面ベクトルについて学習します。

【学習方法と授業の進め方】

授業では教科書、問題集、その他必要に応じてプリントを使用します。理解していることを前提に進むので、必ず教科書の該当範囲を予習しておいてください。また、問題演習やプリント学習では教科書の範囲にとどまらず、入試問題や全国模試の問題を扱うので、そのレベルに照準を合わせるように常に意識して学習しましょう。

【学習評価】

年５回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

【留意事項】

教科書（授業用）のノートと、問題集（演習用）のノートを２冊準備してください。

【予習】　事前に教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いておく。
【授業】　予習でわからなかったところを授業中に解決するつもりで臨む。
【復習】　自分の手で何度も解きなおす。宿題以外に問題集を各自解き進めておく。

【ノートの取り方】　後で見たときにどんな学習をしたかわかるような取り方をする。
予習のときにスペースを多めにとり、あとで注意事項を書き込めるようにするとよい。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	＜数学Ｂ＞ ・数列 数列とその和	数列 等差数列とその和	4	
	5		等比数列とその和 和の記号Σ		
	6		階差数列 いろいろな数列の和		
	7	漸化式と数学的帰納法	漸化式と数列 数学的帰納法		
第2学期	9	・統計的な推測 確率分布	確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散	9	
	10		確率変数の変換 確率変数の和と期待値 独立な確率変数と期待値・分散		
	11	統計的な推測	二項分布 正規分布 母集団と標本		
	12		標本平均の分布 推定 仮説検定		
第3学期	1	＜数学Ｃ＞ ・平面上のベクトル 平面上のベクトルと その演算	平面上のベクトル ベクトルの演算 ベクトルの成分　ベクトルの内積		
	2	ベクトルと平面図形	位置ベクトル ベクトルと図形		
	3		ベクトル方程式		

数学科シラバス（普通科特進選抜コース理系・普通科特進コース理系）

科目名	数学Ⅱ			使用教材	教科書	数学Ⅱ、数学Ⅲ（数研出版）
学　年	2	単位数	4		副教材	4step 数学Ⅱ＋B、数学Ⅲ（特進選抜） クリアー数学Ⅱ＋B、数学Ⅲ（特進）

【授業の概要】

高校の数学はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・Cの６科目ありますが、特進選抜コース・特進コースでは数研出版の教科書を用いて授業を進めます。数学Ⅱでは、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微積分など、数学Ⅲではより発展的な内容を学習します。

【学習方法と授業の進め方】

授業では教科書、問題集、その他必要に応じてプリントを使用します。理解していることを前提に進むので、必ず教科書の該当範囲を予習しておいてください。また、問題演習やプリント学習では教科書の範囲にとどまらず、入試問題や全国模試の問題を扱うので、そのレベルに照準を合わせるように常に意識して学習しましょう。

【学習評価】

年５回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

【留意事項】

教科書（授業用）のノートと、問題集（演習用）のノートを２冊準備してください。

【予習】　事前に教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いておく。
【授業】　予習でわからなかったところを授業中に解決するつもりで臨む。
【復習】　自分の手で何度も解きなおす。宿題以外に問題集を各自解き進めておく。

【ノートの取り方】　後で見たときにどんな学習をしたかわかるような取り方をする。
予習のときにスペースを多めにとり、あとで注意事項を書き込めるようにするとよい。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	＜数学Ⅱ＞ ・複素数と方程式	複素数　２次方程式の解と判別式　解と係数の関係 剰余の定理と因数定理　高次方程式	4	
	5	・図形と方程式 点と直線　円 軌跡と領域	直線上の点　平面上の点 直線の方程式　２直線の関係　円の方程式 円と直線　２つの円　軌跡と方程式		
	6	・三角関数 三角関数	不等式の表す領域 一般角と弧度法　三角関数　三角関数の性質 三角関数のグラフ　三角関数の応用	9	
	7	加法定理	加法定理　加法定理の応用 三角関数の合成		
第2学期	9	・指数関数と対数関数 指数関数 対数関数	指数の拡張 指数関数 対数とその性質　対数関数		
	10	・微分法と積分法 微分係数と導関数	常用対数 微分係数　導関数 接線		
	11	導関数の応用 積分法	関数の値の変化　最大値・最小値 関数のグラフと方程式・不等式 不定積分		
	12		定積分 面積		
第3学期	1	＜数学Ⅲ＞ ・関数	分数関数 無理関数 逆関数と合成関数		
	2	・極限 数列の極限	数列の極限 無限等比数列 無限級数		
	3	関数の極限	関数の極限　三角関数の極限 関数の連続性		

数学科シラバス（普通科特進選抜コース理系・普通科特進コース理系）

科目名	数学Ｂ			使用教材	教科書	数学Ｂ、数学Ｃ（数研出版）
学　年	2	単位数	2		副教材	4step 数学Ⅱ＋Ｂ、数学Ｃ（特進選抜） クリアー数学Ⅱ＋Ｂ、数学Ｃ（特進）

【授業の概要】

高校の数学はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ａ・Ｂ・Ｃの６科目ありますが、特進選抜コース・特進コースでは数学Ｂ、数学Ｃの内容を数研出版の教科書を用いて授業を進めます。数学Ｂでは数列、統計を、数学Ｃではベクトルについて学習します。

【学習方法と授業の進め方】

授業では教科書、問題集、その他必要に応じてプリントを使用します。理解していることを前提に進むので、必ず教科書の該当範囲を予習しておいてください。また、問題演習やプリント学習では教科書の範囲にとどまらず、入試問題や全国模試の問題を扱うので、そのレベルに照準を合わせるように常に意識して学習しましょう。

【学習評価】

年５回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

【留意事項】

教科書（授業用）のノートと、問題集（演習用）のノートを２冊準備してください。

【予習】　事前に教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いておく。
【授業】　予習でわからなかったところを授業中に解決するつもりで臨む。
【復習】　自分の手で何度も解きなおす。宿題以外に問題集を各自解き進めておく。

【ノートの取り方】　後で見たときにどんな学習をしたかわかるような取り方をする。
予習のときにスペースを多めにとり、あとで注意事項を書き込めるようにするとよい。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	＜数学Ｂ＞ ・数列 数列とその和	数列 等差数列とその和	4	
	5		等比数列とその和 和の記号Σ		
	6		階差数列 いろいろな数列の和		
	7	漸化式と数学的帰納法	漸化式と数列 数学的帰納法		
第2学期	9	・統計的な推測 確率分布	確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散	9	
	10		確率変数の変換 確率変数の和と期待値 独立な確率変数と期待値・分散		
	11	統計的な推測	二項分布 正規分布 母集団と標本		
	12		標本平均の分布 推定 仮説検定		
第3学期	1	＜数学Ｃ＞ ・平面上のベクトル 平面上のベクトルと その演算	平面上のベクトル ベクトルの演算 ベクトルの成分　ベクトルの内積		
	2	ベクトルと平面図形	位置ベクトル ベクトルと図形		
	3		ベクトル方程式		

【理科　シラバス】

科目名	地学基礎			使用教材	教科書	高等学校　地学基礎（啓林館）
学　年	2	単位数	2		副教材	センサー地学基礎（啓林館） スクエア最新図説地学（第一学習社）
科・コース	普通科　特別進学選抜コース文系・特別進学コース文系・特別進学国際コース					

【授業の概要】

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付け，科学的に探究する力を養う。また，地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，自然環境の保全に寄与する態度を養う。

【学習方法と授業の進め方】

・教科者内容を中心とした基礎内容から、大学入学共通テストに対応できる入試レベル内容と幅広く扱っていきます。学習内容の中には中学校までに学習したものも含まれます。時には中学校レベルの内容も扱います。
・授業は講義形式を主としながら、グループワークや問題演習と多岐にわたります。ただ勉強をするのではなく、グループ内でのコミュニケーションなども大切となります。
・タブレット端末やプロジェクターを有効活用した授業を行います。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・観察や実験を通して，さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。 ・観察や実験の技能を修得できたか。 ・観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。	・定期考査の知識、理解に関する問題 ・課題への取り組み
②思考・判断・表現	・さまざまな生物現象を論理的に考察・分析し，その本質を原理や法則から説明できるか。 ・観察や実験を通して，地学的な現象を論理的に思考し，問題を解決し，実験結果(事実)に基づいて科学的に判断できるか。 ・課題や実験のレポートにおいて，的確に表現する方法を習得しているか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・課題への取り組み ・観察・実験等
③主体的に学習に取り組む態度	・自然現象に関心をもち，科学的な見方をしているか。 ・授業，実験に意欲的に参加し，論理的に探究しようとする態度が見えるか。 ・学習内容について振り返り，日常生活や社会に生かそうとしているか。	・学習活動への参加のしかたや態度 ・観察・実験・発表等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

①「なぜ？」、「どうして？」の自分の感性を大切にし、常に疑問や課題を持ち、その解決に向けて主体的に授業に取り組むことが重要です。
②授業に参加することは、ただ板書を写すことではありません。
③日本という世界的にも珍しい土地を理解し、身の回りに起こるさまざまな自然現象などに興味をもっていきましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	第１部　固体地球とその活動 第１章　地球 第１節 地球の概観 第２節 地球の内部構造	 Ａ固体地球の表面 Ｂ地球の形 Ａ地殻とマントル Ｂ核		
	5	第２章　活動する地球 第１節 プレートテクトニクスと地球の活動 第２節 地震	 Ａプレート Ｂプレート境界と地球の活動 Ｃプレートの動き Ｄ大地に記録されたプレート運動 Ａ地震の分布 Ｂ地震の発生と断層 Ｃマグニチュードと震度 Ｄ地震波からわかること		
	6	第３節 火山活動と火成岩の形成	Ａマグマと火山の噴火 Ｂ火山の分布 Ｃ噴火の様式 Ｄ火山噴出物 Ｅ火成岩の産状と組織 Ｆ鉱物 Ｇ火成岩の分類		
	7	第２部　大気と海洋 第１章　大気の構造 第１節 大気圏 第２節 水と気象	 Ａ大気の組成 Ｂ気圧と気温 Ｃ大気圏の構造 Ａ大気中の水蒸気 Ｂ雲の発生	13	
第2学期	9	第２章　太陽放射と大気・海水の運動 第１節 地球のエネルギー収支 第２節 大気の大循環	 Ａ太陽放射エネルギー Ｂ地球のエネルギー収支 Ａ緯度による放射・吸収の違い Ｂ熱の輸送 Ｃ風の吹き方 Ｄ大気の大循環		
	10	第３節 海水の循環 第３章　日本の天気 第１節 日本の位置	Ａ海水 Ｂ海洋の層構造 Ｃ海流 Ｄ深層の流れ Ｅ海洋と気候 Ａ偏西風の影響 Ｂ大陸と海の影響	14	
	11	第２節 冬から春の天気 第３節 夏から秋の天気 第３部　移り変わる地球 第１章　地球の誕生 第１節 宇宙の誕生	Ａ冬の天気 Ｂ春の天気 Ａ梅雨 Ｂ夏の天気 Ｃ台風 Ｄ秋の天気 Ａ宇宙のはじまり Ｂ太陽の誕生	13	

		第２節 太陽系の誕生	Ａ太陽系の誕生 Ｂ惑星の特徴 Ｃ生命を生み出す環境		
	12	第２章　地球と 生命の進化 第１節 先カンブリア時代	 Ａ冥王代-地球の誕生- Ｂ太古代-生命の誕生- Ｃ原生代-多細胞生物の出現-		
第 3 学 期	1	第２節 顕生代	Ａ古生代-生物の多様化と上陸- Ｂ中生代-陸上生物の多様化と発展- Ｃ新生代-哺乳類の時代- Ｄ地球環境と生命の進化 Ｅ地質年代の区分		
	2	第３章 地球史の読み方 第１節 地層から わかること 第２節 地層の形成 第３節 地層の読み方	 Ａ砕屑物の形成 Ｂ流水のはたらき Ｃ堆積構造 Ｄ堆積岩とその分類 Ａ過去の地殻変動 Ｂ化石 Ｃ地層の対比		
	3	第４部 自然との共生 第１節 地球環境と人類 第２節 地震災害・ 火山災害 第３節 気象災害 第４節 災害と社会 第５節 人間生活と 地球環境の変化"	 Ａ地球環境の変化の時間・空間スケール Ｂ自然の恩恵 Ａ地震と災害 Ｂ火山と災害 Ａ大雨による災害 Ｂ突風による災害 Ｃ地域や季節に特有の気象災害 Ａ地震の観測と対策 Ｂ火山の観測と対策 Ｃ気象の観測と対策 Ｄ防災・減災への取り組み Ａ地球規模の環境の変化 Ｂ地域的な環境の変化	15	

【理科　シラバス】

科目名	化学基礎			使用教材	教科書	化学基礎（数検出版）
学　年	2	単位数	2		副教材	ニューグローバル化学基礎＋化学(東京書籍)
科・コース	普通科　特別進学選抜コース・特別進学コース					

【授業の概要】

主体的に物質とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成します。

【学習方法と授業の進め方】

大学入試で合格点を取れるレベルを目指して授業を進めます。共通テスト７割以上の得点が取れるようになるには、教科書の本文を前後の法則の関連性を重視して体系的に理解することが必要です。教科書がすべて終了したとき、難解と思われる問題を解くイメージを自力で作れるようになるはずです。年間を通じて、ある程度の量の演習が必要です 。
最終的には、理解は一個人の不断の学習でなされます。気長で根気ある学習姿勢を身に付けて下さい。
１年間で教科書のすべてを指導します。特に、章末問題を自力で解ける実力をはじめの目標にしてください。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に判断する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・課題への取り組み
②思考・判断・表現	・観察，実験などを行い，探究の過程を通して，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈，報告書の作成や発表などの探究の方法を習得し，科学的に探究する力を身に付けている。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・課題への取り組み ・観察・実験等
③主体的に学習に取り組む態度	・物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・観察・実験・発表等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・化学の計算、考え方は「比」です。「比」の計算を良く練習しましょう。また、実験値等から概数計算をすることもよくあります。普段の練習問題から概数計算を行うことを心がけましょう。
・化学の知識は最初から最後まで連動しています。分からなくなったとき、教科書の最初に戻る勇気が必要です。場合によっては、中学校の教科書に戻ることも大切です。
・化学で出てくる元素記号は、国語でいうところの平仮名５０音のようなものです。先ずは元素記号を覚えましょう

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	序章　化学の特徴	・身近な物質を探究する活動を通して，物質を対象とする学問である化学の特徴について理解する。 ・身近な物質について観察，実験などを通して探究し，科学的に考察し，表現する一連の活動を通して，科学的に探究する方法について理解する。 ・観察，実験にあたって，安全性の確保や，適切な実験器具の使用と操作による事故防止の方法を身に付ける。その際，試薬の適切な取り扱い，廃棄物の適切な処理など，環境への影響などにも十分配慮する。	9 12	
	5	第1編　物質の構成と化学結合 第1章　物質の構成 第2章　物質の構成粒子 第3章　粒子の結合	・物質の分離や精製などの実験を行い，実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付ける。 ・元素を確認する実験などを行い，単体，化合物について理解する。 ・粒子の熱運動と温度の関係，粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解する。 ・原子の構造及び陽子，中性子，電子の性質を理解する。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。	9	
	6		・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。 ・イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する	9	
	7		・金属結合及び金属の性質を理解する。 ・身近な結晶の性質を調べる実験を行い，電子配置や化学結合の種類と関連付けて理解する。	9	
第2学期	9	第2編　物質の変化 第1章　物質量と化学反応式	・物質量と粒子数，質量，気体の体積との関係について理解する。		
	10		・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。	12	
	11	第2章　酸と塩基の反応	・酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	6 14 15	
	12			6 14 15	
第3学期	1	第3章　酸化還元反応	・酸化と還元が電子の授受によることを理解する。また，酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。	6 14 15	
	2			6 14 15	
	3	終章　化学が拓く世界	・化学基礎で学んだ事柄が，日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解する。	2 6 9	

【理科　シラバス】

科目名	化学			使用教材	教科書	化学（数検出版）
学　年	2	単位数	2		副教材	ニューグローバル化学基礎＋化学(東京書籍)
科・コース	普通科　特別進学選抜コース・特別進学コース					

【授業の概要】

化学基礎で学んだ身の回りの物質の性質をさらに詳しく学び、身近で起こる化学変化と結びつけて、生命と生活に関係する物質について具体的に学習する科目です。(化学基礎の続き)

【学習方法と授業の進め方】

大学入試で合格点を取れるレベルを目指して授業を進めます。国公立２次や私大入試で合格点が取れるようになるには、教科書の本文を前後の法則の関連性を重視して体系的に理解することが必要です。教科書がすべて終了したとき、難解と思われる問題を解くイメージを自力で作れるようになるはずです。年間を通じて、ある程度の量の演習が必要です。暗記型の対応は通じず、理解は一個人の不断の学習でなされます。気長で根気ある学習姿勢を身に付けて努力しましょう。授業だけでは教科書を終了させる時間が不足するので、登校講座や土曜講座で補います。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・観察や実験を通して，さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。 ・観察や実験の技能を修得できたか。 ・観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・課題への取り組み
②思考・判断・表現	・さまざまな化学反応を論理的に考察・分析し，その本質を原理や法則から説明できるか。 ・観察や実験を通して，化学反応を論理的に分析し，問題を解決し，実験結果(事実)に基づいて科学的に判断できるか。 ・課題や実験のレポートにおいて，的確に表現する方法を習得しているか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・課題への取り組み ・観察・実験等
③主体的に学習に取り組む態度	・自然現象や身近にある化学的な事象に関心をもち，科学的な見方をしているか。 ・授業，実験に意欲的に参加し，論理的に探究しようとする態度が見えるか。 ・学習内容について振り返り，日常生活や社会に生かそうとしているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・観察・実験・発表等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・化学基礎からの続きの内容です。化学基礎内容をしっかりと理解していないと、化学の授業内容を理解することが困難になります。化学式、化学反応式、物質量計算等の基本事項は確実に定着させましょう。
・２年次の化学では無機化学まで行い、３年次からは有機化学を行う予定です。入試に対応するために、補習や講座等で教科書内容を補填していきます。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	第1章　固体の構造 1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶 5 共有結合の結晶	「化学基礎」では，イオン結合，共有結合，金属結合でできた物質について学習しているので，本章ではそれらの知識と関連付けながら固体の結晶格子の概念とそれぞれの結晶の構造について理解する。		
	5	第2章　物質の状態変化 1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧	「化学基礎」では，標準状態における物質量と気体の体積との関係について学習している。本章では，理想気体の状態方程式について理解をし，それを利用した分子量計算についても理解する。また，混合気体に対する考え方や実在気体と理想気体の違いについても理解する。	7	
	6	第4章　溶液 1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液	「化学基礎」では，溶液のモル濃度について学習している。本章では，溶解のしくみを理解するとともに，固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。また，希薄溶液とその性質やコロイド溶液の性質について，身近な現象と結びつけながら理解する。		
	7	第2編　物質の変化 第1章　化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱 2 ヘスの法則 3 化学反応と光	本章では，化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が熱の発生や吸収となって現れ，その熱量の変化をエンタルピー変化として記述することを理解する。さらにヘスの法則を用いることで，測定が困難な反応エンタルピーを求めることができることを理解する。また，化学反応には光の発生や吸収も伴うものがあることも，具体的な反応を交えながら理解する。	7	
第2学期	9・10	第4章　化学平衡 1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡	本章では可逆反応と化学平衡，ルシャトリエの原理に基づく化学平衡の移動について理解する。また「化学基礎」では酸や塩基の強弱と電離度の大小との関係，水素イオン濃度と pH との関係について学習しているが，本章では電解質水溶液における電離平衡について理解し，濃度や電離度と電離定数の関係やそれらを利用した pH の求め方を理解する。またこれらの考え方を用いた緩衝液や溶解度積についても理解する。		
	11	第3編　無機物質 第1章　非金属元素 1 元素の分類と周期表 2 水素・貴ガス元素 3 ハロゲン元素	「化学基礎」では，元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係，化学結合に関連して幾つかの無機物質について学習している。本章では元素を周期表に基づいて族ごとに分類し，性質が似た元素の単体や化合物ごとにその性質を理解する。	9 12	
	12	4 酸素・硫黄 5 窒素・リン 6 炭素・ケイ素			
第3学期	1	第2章　金属元素（I）-典型元素- 1 アルカリ金属元素 2 アルカリ土類金属元素 3 アルミニウム・スズ・鉛	本章では，非金属元素と同様に典型非金属元素もその性質が周期表に基づいて整理できることを理解し，それぞれの典型金属元素の単体や化合物の性質を理解する。	9 12	
	2	第3章　金属元素（II）-遷移元素- 1 遷移元素の特徴 2 鉄 3 銅 4 銀・金	本章では，遷移元素の単体とその化合物の性質について理解する。遷移元素が典型元素と違い，同一周期でその性質が似ていることを理解したうえで，身近な金属である鉄や銅，銀，亜鉛などを中心に，単体や化合物，イオンなど特徴的な性質を理解する。		
	3	5 亜鉛 6 クロム・マンガン 7 その他の遷移金属 8 金属イオンの分離・確認			

【理科　シラバス】

科目名	物理			使用教材	教科書	物理（数研出版）
学　年	2	単位数	2		副教材	リードα物理（数研出版）
科・コース	普通科　特別進学選抜コース・特別進学コース					

【授業の概要】

力と運動や電磁気、分子の運動などの見方・考え方を単なる知識として受け入れるのではなく、背景となっている物理法則を体系的に理解する科目です。目的意識をもって観察，実験を行うことなどを通して，物理学的に探究するために必要な資質・能力を身につけるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成します。

【学習方法と授業の進め方】

大学入試で合格点を取れるレベルを目指して授業を進めます。国公立２次や私大入試で合格点が取れるようになるには、教科書の本文を前後の法則の関連性を重視して体系的に理解することが必要です。教科書がすべて終了したとき、難解と思われる問題を解くイメージを自力で作れるようになるはずです。年間を通じて、ある程度の量の演習が必要です。暗記型の対応は通じず、理解は一個人の不断の学習でなされます。気長で根気ある学習姿勢を身に付けて努力しましょう。授業だけでは教科書を終了させる時間が不足するので、登校講座や合宿講座で補います。特に、章末問題を自力で解ける実力を目標とします。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・観察や実験を通して，さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。 ・自然現象を定量的に考察するため，物理量（概念）を定義し，利用することが理解できたか。 ・観察や実験の技能を修得できたか。 ・観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・課題への取り組み
②思考・判断・表現	・さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し，その本質を原理や法則から説明できるか。 ・観察や実験を通して，物理現象を論理的に分析し，問題を解決し，実験結果(事実)に基づいて科学的に判断できるか。 ・課題や実験のレポートにおいて，的確に表現する方法を習得しているか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・課題への取り組み ・観察・実験等
③主体的に学習に取り組む態度	・自然現象に関心をもち，科学的な見方をしているか。 ・授業，実験に意欲的に参加し，論理的に探究しようとする態度が見えるか。 ・学習内容について振り返り，日常生活や社会に生かそうとしているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・観察・実験・発表等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・予習は教科書を読み、どんな現象を扱うのか大雑把に把握しておきましょう。
・復習は授業で出てきた法則や公式を、自分で導き出して紙に書いてみましょう。もちろんノートを見ながらで構いません。法則が導かれる手順を学ぶことが大切です。ものごとを順序よく考える力にもつながります。考え方のプロセスを学習することも物理を学ぶねらいだと捉えると、普段の授業の受け方や勉強の取り組み方も変わってくるはずです。それでもわからなくなってしまう、というのはよくあることです。そういうときはもう１度教科書に目を通してみましょう。また遠慮せず物理の先生に聞きに行きましょう。わからないところをウヤムヤにせず、その場で徹底的につぶすことが重要です。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	1編　さまざまな運動 1章　平面内の運動 1節　平面内の運動 A 変位 B 速度 C 加速度 D ベクトルの成分表示 E 平面内の合成速度と相対速度 F 運動の法則	・平面内を運動している物体のようすを表すのに必要な物理量のうち、位置ベクトルや変位（ベクトル）について理解する。 ・平面内を運動している物体のようすを表すのに必要な物理量のうち、速度（平均の速度、瞬間の速度）について理解する。 ・平面内を運動している物体のようすを表すのに必要な物理量のうち、加速度（平均の加速度、瞬間の加速度）について理解する。 ・ベクトルで表された物理量について、座標軸を定めることで成分（スカラー）によって表示でき、成分で変位や速度、加速度を考えることができることを理解する。 ・平面内での合成速度と相対速度とその求め方について理解する。 ・「物理基礎」で学習した一直線上における運動の法則について、平面内においても同様に扱えることを理解する。	9	
	5	2節　放物運動 A 水平投射 B 斜方投射 C 空気の抵抗力	・水平投射された物体の運動を水平方向と鉛直方向に分解し、どのように成分表示されるか理解する。 ・斜方投射された物体の運動を水平方向と鉛直方向に分解し、どのように成分表示されるか理解する。 ・空気中を落下する物体には抵抗力がはたらくこと、そのときの物体の運動のようすがどのように表されるか理解する。	9	
	6	2章　剛体のつり合い 1節　剛体と力のモーメント A 大きさのある物体 B 剛体のつり合い C 重心	・「物理基礎」で学習した質点と異なり、大きさと質量をもつ物体（剛体）があること、その運動のようすについて理解する。 ・「てこの原理」から、剛体が傾く（回転する）ときと傾かない（回転しない）ときの条件を理解する。 ・剛体を回転させる効果を力のモーメントということ、その表し方について理解する。 ・剛体がつり合う条件について理解する。 ・剛体にはたらく 2 力の合成のしかたや偶力について理解する。 ・さまざまな物体の重心について理解する。 ・2物体や3物体以上の重心の位置の求め方について理解する。 ・物体が転倒しない条件について知る。	9	
	7	3章　運動量 1節　力積と運動量 A 力積 B 力積と運動量 C 運動量 D 撃力と平均の力	・物体に加える力の大きさと時間の関係について考え、力と時間の積を力積ということを理解する。 ・質量と速度の積を運動量ということを理解する。 ・物体に与えた力積と物体の運動量の関係について理解する。 ・運動量という物理量について理解する。 ・ごく短い時間にはたらく力を撃力といい、撃力と平均の力の関係について理解する。	9	
第2学期	9	2節　運動量の保存 A 直線上での衝突と運動量 B 直線上での運動量の保存 C 運動量の保存 3節　反発係数（3h） A 床や壁との衝突 B 直線上の2物体の衝突 C 運動量と力学的エネルギー	・直線上で物体が衝突するときにどの物理量がどのような関係になっているか、仮説を立てて検証方法を考える。 ・速度や運動エネルギー、運動量の関係が衝突の前後でどのようになっているか理解する。 ・直線上で物体が衝突するときに、運動量が保存されることを文字式から導き、理解する。 ・直線上に限らず、平面上でも運動量が保存されること、運動量が保存されるときには外力がはたらかないかはたらいていても和が0であることを理解する。 ・衝突や分裂する際に、物体全体の重心の運動は変化しないことを知る。 ・物体を床や壁に衝突させたときの反発係数が、衝突前後の速さの比で表されることを理解する。 ・反発係数の違いによって、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突に分類されることを理解する。 ・面に斜めに衝突する際の物体の速度と反発係数との関係について理解する。 ・直線上で2物体が衝突するときの反発係数が、衝突前後での	9	

			相対速度の大きさの比で表されることを理解する。 ・反発係数の違いによって、衝突前後での力学的エネルギーがどのように変化するかを理解する。		
	10	4章　円運動 1節　円運動 A 等速円運動の表し方 B 円運動に必要な力 2節　慣性力 A 直線運動における慣性力 B 円運動における慣性力	・等速円運動を表す量として、周期や回転数、速度について、その表し方や関係を理解する。 ・円運動を表す量として、角速度について表し方や速度との関係について理解する。 ・等速円運動する物体の加速度がどのように表されるか、考え方とともに理解する。 ・円運動の角速度で用いる角度の表し方について理解する。 ・等速円運動する物体にはたらく力について、運動方程式をもとに表し理解する。 ・水平面内だけでなく、鉛直面内で円運動する物体の運動のようすについて、理解を深める。 ・円運動を利用した乗り物について、乗っている人が力を感じる理由について考える。 ・直線運動における地面で静止している人から見た運動する物体のようすと、物体とともに運動する人が見た物体のようすについて比較しながら考え、慣性力について理解する。 ・慣性系と非慣性系について知る。 ・円運動における慣性力である遠心力について理解する。	9	
	11	5章　単振動 1節　単振動 A 単振動とは B 単振動の表し方 2節　さまざまな単振動 A ばね振り子 B 単振動を引き起こす力と単振動の周期 C 単振り子	・単振動する物体の変位の時間変化が正弦曲線で表されることを理解する。 ・単振動が等速円運動の射影であること、変位や速度、加速度がどのように表されるか理解する。 ・振動の周期が何によって決まるか考える。 ・鉛直ばね振り子の周期と振幅やばね定数、おもりの質量とがどのような関係にあるか理解する。 ・鉛直ばね振り子の周期がどのように表されるか論理的な導出をふまえて理解する。 ・水平ばね振り子の周期がどのように表されるか理解する。 ・物体が単振動するときにはたらく力を復元力ということ、復元力の表し方について理解する。 ・一般的な単振動の周期の表し方について理解する。 ・単振り子の周期と振れ角やおもりの質量、単振り子の長さとがどのような関係にあるか理解する。 ・単振り子の周期がどのように表されるか論理的な導出をふまえて理解する。 ・振り子の等時性について理解する。	9	
	12	3節　単振動のエネルギー A 単振動のエネルギー	・波力発電のしくみについて考える。 ・単振動する物体がもつエネルギーについて、その表し方とともに理解する。	9	
第3学期	1	6章　万有引力 1節　惑星の運動 A ケプラーの法則 2節　万有引力 A 万有引力の法則 B 重力 C 人工衛星 D 万有引力による位置エネルギー	・惑星の軌道や惑星の諸定数から、惑星の運動にどのような規則性があるのか考え、ケプラーの法則について理解する。 ・地球上の物体の質量を知ることと比較して、地球そのものの質量を知る方法について考える。 ・2つの物体間にはたらく万有引力の法則について理解する。 ・万有引力の法則から重力がどのように表されるか理解する。 ・人工衛星の速さが、地表からの高さの違いによってどのように表されるか理解する。 ・万有引力による位置エネルギーについて理解する。 ・万有引力による位置エネルギーをもとに、第2宇宙速度について理解する。 ・第3宇宙速度について知る。	9	
	2	7章　気体分子の運動 1節　気体の性質 A 気体の圧力 B ボイル・シャルルの法則 C 理想気体の状態方程式 2節　気体分子の運動と状態方	・中学校や物理基礎で学習した気体の圧力について、気体分子から見たときにどのように考えられるか理解する。 ・気体の温度が一定のとき、気体の体積と圧力が反比例する（ボイルの法則）ことについて理解する。 ・気体の圧力が一定のとき、気体の体積が絶対温度に比例する	7	

		程式 　A 気体分子の運動と圧力 　B 気体分子の運動と絶対温度 　C 気体分子の運動と気体の内部エネルギー	（シャルルの法則）ことについて理解する。 ・ボイルの法則とシャルルの法則をまとめて表すことができる（ボイル・シャルルの法則）ことについて理解する。 ・理想気体とはどのような気体か理解し、気体の量を表すときに物質量を用いることを理解する。 ・理想気体の状態方程式について理解する。 ・マクロな視点とミクロな視点との違いについて考える。 ・気体分子の運動によって、気体の圧力がどのように表されるか理解する。 ・気体分子の運動によって、気体分子の運動エネルギーと絶対温度の関係がどのように表されるか理解する。 ・気体の 2 乗平均速度について理解する。 ・気体分子の運動によって、気体の内部エネルギーがどのように表されるか理解する。 ・単原子分子気体と多原子分子気体の違いについて理解する。		
	3	3節　熱力学第 1 法則と気体の状態変化 　A 熱力学第 1 法則 　B 気体のする仕事 　C 熱力学第 1 法則と気体の状態変化 　D 気体のモル熱容量 　E 気体の状態変化のまとめ 4節　熱力学第 2 法則と熱機関 　A 熱力学第 2 法則と熱効率 　B 熱力学第 2 法則と可逆変化、不可逆変化 　C 熱力学第 2 法則の別の表し方	・熱力学第 1 法則について理解する。 ・気体がする仕事、される仕事と熱力学第 1 法則についての関係を理解する。 ・気体が仕事をされたときの熱力学第 1 法則との関係を理解する。 ・等温変化、断熱変化、定積変化、定圧変化での熱力学第 1 法則との関係について理解する。 ・気体が定積変化、定圧変化するときの比熱容量について理解する。 ・定積モル熱容量と定圧モル熱容量の関係について理解する。 ・物理基礎で学習した気体の状態変化における状態方程式や熱力学第 1 法則の関係について振り返る。 ・物理基礎で学習した熱機関の熱効率をふまえて、熱力学第 2 法則について理解する。 ・可逆変化と不可逆変化についてエントロピーと関連付けて理解する。 ・熱力学第 2 法則がさまざまな表し方をできることを理解する。	7	

【理科　シラバス】

科目名	生物			使用教材	教科書	生物（東京書籍）
学　年	２年	単位数	2		副教材	新課程ニューグローバル生物（東京書籍） フォトサイエンス生物図録（数研出版）
科・コース	普通科　特別進学選抜コース・特別進学コース（理系・選択）					

【授業の概要】

①生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成することを目標とします。
②２～３年生の２年を使い、教科書を進めていきます。

【学習方法と授業の進め方】

①授業は基本的に「グループワーク（ディスカッション）」、「講義」、「実験・観察」の３つのスタイルで行います。
②単元ごとに確認テストを行い、知識の定着と思考力を評価していきます。
③タブレット端末やプロジェクターなどのＩＣＴ機器を活用しながら、授業を展開していきます。
④ワークは学習内容がある程度蓄積したら、随時進めていくことを進めます。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・観察や実験を通して，さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。 ・観察や実験の技能を修得できたか。 ・観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。	・定期考査の知識、理解に関する問題 ・課題への取り組み
②思考・判断・表現	・さまざまな生物現象を論理的に考察・分析し，その本質を原理や法則から説明できるか。 ・観察や実験を通して，生物現象を論理的に思考し，問題を解決し，実験結果(事実)に基づいて科学的に判断できるか。 ・課題や実験のレポートにおいて，的確に表現する方法を習得しているか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・課題への取り組み ・観察・実験等
③主体的に学習に取り組む態度	・自然現象に関心をもち，科学的な見方をしているか。 ・授業，実験に意欲的に参加し，論理的に探究しようとする態度が見えるか。 ・学習内容について振り返り，日常生活や社会に生かそうとしているか。	・学習活動への参加のしかたや態度 ・観察・実験・発表等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

①「なぜ？」、「どうして？」の自分の感性を大切にし、常に疑問や課題を持ち、その解決に向けて主体的に授業に取り組むことが重要です。
②授業に参加することは、ただ板書を写すことではありません。
③地球上では日々新しい科学的発見などが起きています。生物学も日々変化、更新されているものです。ニュースなどを見たり、Ｗｅｂなどで調べたりすることで、自身の科学的興味関心を伸ばしていきましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	1編　生物の進化 1章 生命の起源と細胞の進化	1.共通性と多様性をつなぐ進化 A　私たちから最も遠い生物 B　進化が生物にもたらすもの 2.生命の誕生 A　アミノ酸の合成 B　核酸やタンパク質の合成 C　細胞の起源 3.生物の多様性と地球環境の変化 A　生物の出現と大気組成の変化 B　真核生物の誕生		
	5	2章 遺伝子の変化と進化のしくみ	1.遺伝子変異 A　遺伝的変異が生じるしくみ 2.多様な遺伝子変異をもたらす有性生殖 A　染色体と遺伝子座 B　減数分裂で生じる多様な配偶子 C　遺伝子の連鎖と独立 D　乗換えで生じる新しい連鎖と組換え 3.進化の定義と自然選択による進化 A　自然選択による進化 B　適応進化 4.遺伝子レベルでみる進化 A　遺伝子プールと遺伝子頻度 B　自然選択による遺伝子頻度の変化 C　遺伝的浮動 D　分子進化と中立進化 5.種分化 A　種とは何か B　種分化のしくみ C　種多様性のしくみ		
	6	3章 生物の系統と進化 2編　生命現象と物質 1章 細胞と物質	1.生物の系統 A　DNA の塩基配列に基づく系統樹 B　系統の探究 2.生物の系統分類 A　生物の分類 B　ドメイン 3.霊長類のなかのヒト A　霊長類の特徴 B　類人猿とヒトの違い 4.人類の出現と変遷 A　最初の人類の特徴 B　原人・旧人の出現 C　ヒトの出現 1.細胞を構成する成分 A　細胞を構成する成分 2.生体膜のはたらき A　生体膜のはたらきと構造 B　生体膜の透過		
	7		3.細胞の構造 A　真核細胞の構造とはたらき B　遺伝情報にかかわる構造 C　エネルギーの変換にかかわる構造 D　タンパク質の合成にかかわる構造 E　細胞分裂や物質の貯蔵にかかわる構造 F　細胞の保護にかかわる構造 G　細胞の形の維持や運動にかかわる構造 4.タンパク質の構造 A　タンパク質の構造 B　タンパク質のフォールディングと変性		

第2学期	9	2章 代謝とエネルギー	5.酵素としてのタンパク質 A 活性化エネルギーと酵素 B 活性部位と基質特異性 C 酵素の反応速度 D 酵素の活性と変性 E 酵素反応の阻害 F 補酵素と金属 G 酵素反応の調節 6.生命現象とタンパク質 A 生体膜での輸送 B 細胞間の情報伝達 1.代謝とエネルギー A 化学反応とエネルギー B 代謝と ATP 2.呼吸 A 呼吸の反応経路と反応の場 B 解糖系 C クエン酸回路 D 電子伝達系 E 呼吸全体での ATP の収率 3.発酵 A 発酵と呼吸の違い B 発酵の種類 4.光合成 A 光合成反応の過程と反応の場 B チラコイドでの反応～光合成の第一段階～ C ストロマでの反応～光合成の第二段階～		
	10	3編 遺伝情報の発現と発生 1章 遺伝情報とその発現	1.DNA の構造 A DNA の二重らせん構造と方向性 2.DNA の複製 A DNA の複製の過程 3.遺伝情報の流れ A 遺伝情報の流れ 4.RNA と転写 A RNA の構造と種類 B 転写のしくみ C 真核生物の RNA の加工 5.翻訳のしくみ A コドンと遺伝暗号表 B 翻訳のしくみ C 原核生物のタンパク質合成	9	
	11	2章 発生と遺伝子発現	6.遺伝情報の変化 A 突然変異とアミノ酸配列 B DNA 多型 1.原核生物の遺伝子発現の調節 A 大腸菌と培地 B 大腸菌の環境に対する応答 C 原核生物の基本的な転写調節 2.真核生物の遺伝子発現の調節 A 真核生物の遺伝子発現の調節 B 細胞外の環境に応じた遺伝子発現の調節 3.選択的遺伝子発現と細胞分化 A 分化した細胞の遺伝子発現 B 遺伝子発現の調節の変化と細胞の分化 4.動物の発生 A 動物の配偶子形成 B 卵と精子 C 受精 D ウニの発生 E カエルの発生 5.胚の細胞の発生運命と遺伝子発現 A 原腸形成での細胞のはたらきと発生運命	9	

			B　原基分布図と細胞分化 C　細胞分化と遺伝子発現 6.発生現象と遺伝子発現の調節 A　細胞質決定因子 B　カエルの受精でみられる 卵の細胞質の配置換えと背腹の決定 C　ショウジョウバエの前方部の決定 D　誘導 E　誘導の連鎖		
	12	3章 遺伝子を扱う技術	7.動物の形と調節遺伝子の発現 A　動物の体の形を決める遺伝子 B　動物の形づくりとホックス遺伝子 1.遺伝子を増幅する技術 A　制限酵素による DNA の切断 B　DNA クローニング C　ポリメラーゼ連鎖反応 2.塩基配列を解読する技術 A　電気泳動 B　サンガー法（ジデオキシ法） C　ゲノムプロジェクト 3.遺伝子組換え技術の応用 A　大腸菌への遺伝子導入 B　生物個体への遺伝子導入 4.遺伝子や細胞を扱う技術の課題 A　遺伝子や細胞を扱う技術の課題		
第3学期	1	4編　生物の環境応答 1章 動物の刺激と受容	1.刺激の受容から反応への流れ A　情報の伝達と反応 B　ニューロン 2.ニューロンの興奮 A　静止電位と活動電位 B　全か無かの法則 3.興奮の伝導 A　興奮の伝導 B　跳躍伝導 4.興奮の伝達 A　シナプスと情報の伝達		
	2		5.刺激の受容と感覚 A　光刺激の受容 B　視細胞 C　眼の調節 6.中枢神経系での情報処理 A　中枢神経系 B　反射 7.効果器 A　筋肉の構造 B　筋収縮のコントロール		
	3	2章 動物の行動	1.動物の行動とは A　動物の行動をめぐる4つのなぜ B　行動発現のしくみ C　行動の生得的な要素と習得的な要素 2.刺激の受容と行動 A　フェロモンと走性 B　行動の神経メカニズム 3.学習のしくみ A　慣れの神経メカニズム B　脱慣れと鋭敏化 C　古典的条件づけ		

【英語科　シラバス】

科目名	英語会話Ⅰ			使用教材	教科書	Vision Quest Ⅱ Ace
学　年	2	単位数	1		副教材	プリントを配布
科・コース	普通科　特別進学国際コース					

【授業の概要】

「英語コミュニケーションⅠ」と「論理・表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ，「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動を行います。英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを英語で効果的に伝えられるようになることを目標とします。

【学習方法と授業の進め方】

授業は英語で行われます。英語の発音やイントネーションを体得しながら語彙を増やし、様々な場面や状況におけるコミュニケーションスキルを身につけます。また，ディベートや、ディスカッション、スピーチにおける論理の展開方法や表現を習得します。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価します。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・英語でのコミュニケーションにおいて必要となる語彙や表現を理解している。 ・各文法事項の用法を理解している。	・定期考査の「知識・技能」に関する問題
②思考・判断・表現	・相手とスムーズなやり取りができる。 ・学習した語彙や表現，および文法事項を生かして発表することができる。 ・習得した語彙や表現，および文法事項を踏まえて自分の英文を膨らませて，情報や考えを発信することができる。 ・相手に理解してもらえるように論理の構成や展開を工夫することができる。	・定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題 ・授業中の発言や，ペアワーク，グループワークなどの言語活動 ・スピーキングテストやスピーチ
③主体的に学習に取り組む態度	・積極的に言語活動に参加し，コミュニケーションを図ろうとしている。 ・間違うことを恐れずに，情報や考えを発信しようとしている。 ・あいづちを打ったり質問をするなどして，相手の話を関心を持って聞いている。 ・学習した語彙や表現，および文法事項表現を使おうとしている。 ・適切に伝えられなかったことを振り返ろうとしている。	・授業中の発言や，ペアワーク，グループワークなどの言語活動 ・スピーキングテストやスピーチ ・課題等の提出状況

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・授業中は日本語ではなく英語で発信することを心がけましょう。
・ALT と積極的にコミュニケーションを取りましょう。
・新しくインプットした語彙や表現はできるだけアウトプットし，定着を図りましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	Self Introduction	ALT、クラスメートの自己紹介を聞き、質問をする。		
	5	Speech 導入	TED や他の歴史的な Speech を視聴し、Speech の仕方について学ぶ。		
	6	Speech	Recitation：各自が暗唱したい文章を選び、発表する。		
	7	Speech	各自がテーマを決め，計画を立てる。資料やデータを集め、原稿を作成する		
第2学期	9	Speech	発表，Q&A。		
	10	Discussion 導入	説得力のある意見表明の仕組みを学び、作成を行う。		
	11	Discussion	異文化をテーマに，ディスカッションを行う。	3,10	
	12	Discussion	社会をテーマに，ディスカッションを行う。	4,17	
第3学期	1	Debate 導入	Debate の導入を行う		
	2	Debate	国内の身近な Topic に関して Debate を行う。	4,17	
	3	Debate	異文化、国際社会での Topic に関して Debate を行う。	3,10	

【英語科　シラバス】

科目名	時事英語Ⅰ			使用教材	教科書	なし
学　年	2	単位数	2		副教材	プリントを配布
科・コース	普通科　特別進学国際コース					

【授業の概要】

「英語コミュニケーションⅠ」と「論理・表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ，「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を中心とした言語活動を行います。海外のニュースや英字新聞などを通して最新の時事問題に触れ，健康・政治・医療・経済・情報など様々な社会問題への理解を深めます。

【学習方法と授業の進め方】

海外のニュースを英語で視聴し，英語版の新聞記事を読みます。併せて、英語検定試験対策も行います。エッセイにおける論理の展開方法や表現を習得し、英文要約の基盤となる情報整理力や、パラフレーズのための語彙力アップを目指します。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価します。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・時事問題を扱う際に必要となる語彙や表現を理解している。 ・各文法事項の用法を理解している。	・定期考査の「知識・技能」に関する問題
②思考・判断・表現	・ニュースや記事の内容を英語で理解できる。 ・学習した語彙や表現，および文法事項を生かしてエッセイを書くことができる。 ・習得した語彙や表現，および文法事項を踏まえて自分の英文を膨らませて，情報や考えを発信することができる。 ・相手に理解してもらえるように論理の構成や展開を工夫することができる。	・定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題 ・授業中の発言や，ペアワーク，グループワークなどの言語活動 ・エッセイ
③主体的に学習に取り組む態度	・積極的に言語活動に参加し，理解を深めようとしている。 ・間違うことを恐れずに，情報や考えを発信しようとしている。 ・学習した語彙や表現，および文法事項表現を使おうとしている。 ・適切に伝えられなかったことを振り返ろうとしている。	・授業中の発言や，ペアワーク，グループワークなどの言語活動 ・エッセイ ・課題等の提出状況

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・授業中は日本語ではなく英語で発信することを心がけましょう。
・ALT と積極的にコミュニケーションを取りましょう。
・新しくインプットした語彙や表現はできるだけアウトプットし，定着を図りましょう。
・授業以外でも時事問題に関心を持ち，ニュースや新聞などの媒体を活用して情報収集をしておきましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	英検２級対策	リスニング・リーディング対策を行う。		
	5	英検２級対策	ライティング対策を行う。		
	6	英検２級対策	２次試験対策を行う。		
	7	時事問題	最新のニュースに触れ，理解を深める。	7,11	
第2学期	9	時事問題	最新のニュースに触れ，理解を深める。	1,2	
	10	時事問題	最新のニュースに触れ，理解を深める。	3,4	
	11	時事問題	最新のニュースに触れ，理解を深める。	5,8	
	12	時事問題	最新のニュースに触れ，理解を深める。	6,13	
第3学期	1	時事問題	最新のニュースに触れ，理解を深める。	9,11	
	2	時事問題	最新のニュースに触れ，理解を深める。	12	
	3	英検準一級対策	長文読解対策を行う。		

【英語科　シラバス】

科目名	英語コミュニケーションⅡ			使用教材	教科書	CROWN English Communication Ⅱ (三省堂)
学　年	2	単位数	4		副教材	CROWN English Communication Ⅱ ワークブック(三省堂) システム英単語 Pocket(駿台文庫)
科・コース	普通科　特選・特進・特国コース					

【授業の概要】

「英語コミュニケーションⅠ」の学習内容を踏まえ,「聞くこと」・「読むこと」・「やり取り」・「発表」・「書くこと」の5領域（スキル）の力を伸ばす活動を行いながらテキスト本文の理解を深め,各レッスンの目標（Give It a Try!）を達成できるようにします。
学習したことを踏まえ自分の考えや意見を英語で表現し,それを説明・発表する活動を通して,英語で様々な表現ができるようになり,学習内容の理解をより深められることを目標としています。

【学習方法と授業の進め方】

授業は新出単語・熟語の意味を確認し,文法項目の説明を加えながら内容を理解し要点をつかめるように英文を読み進めていきます。リスニングでの内容理解の確認や自分の考えや意見の英作文,ペアワークやグループワークなどの活動も行います。またワークブックを使って各パート,レッスンの復習やまとめを行い,教科書の本文と関連したテーマの初見の英文を読んで発展的な問題にも取り組みます。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・英語の5技能（聞く，読む，話す，発表する，書く）について実際のコミュニ ケーションにおいて活用できる知識・技能 を身に付けている。 ・英語の学習を通じて，言語の働きや役割などを理解している。 ・英語を通じて，異文化に興味を持つことができる。	・定期考査の「知識・技能」に関する問題
②思考・判断・表現	・場面，目的，状況等に応じて，日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について，情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して，自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	・定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題 ・自分の意見や考えを表現している
③主体的に学習に取り組む態度	・他者を尊重し，聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して，自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って，自律的，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業中のペアワークやグループワークにおける発言・発表・参加意欲・態度 ・ワークブック等の課題の提出状況

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・事前に各レッスンの新出単語や熟語の意味を調べておく。
・英文の内容理解・読解に努める。
・授業中のペアワークやグループワークに積極的に参加する。また,発言・発表を積極的に行う。
・ワークブックやその他の課題の提出を行う。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	Lesson 1 Lost in Translation	・翻訳作業について，理解して考えを深めることができる。 ・不定詞の意味上の主語，不定詞/動名詞の受動態に関する事項を理解している。本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。		
	5	Lesson 2 One Book Can Empower a Child	・アジアの国々の子どもたちへ絵本を届けるボランティア活動について，理解して考えを深めることができる。 ・動名詞の意味上の主語，不定詞の完了形に関する事項を理解している。本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。	4	
	6	Lesson 3 Accessible Japan	・障がい者のために活動するジョシュ・グリズデイルさんの活動や考え方について理解し，考えを深めることができる。 ・さまざまな分詞構文，強調構文に関する事項を理解している。本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。	3	
	7	Lesson 4 Crossing the Border ― Médecins Sans Frontières ―	・「国境なき医師団」で活躍する貫戸朋子医師の体験を通し，その活動や考え方について理解して考えを深めることができる。 ・関係副詞の非制限用法，不定詞+前置詞に関する事項を理解している。本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。	1	
第2学期	9	Lesson 5 Mental Toughness	・スポーツにおけるメンタル・タフネスについて，理解して考えを深めることができる。 ・前置詞+関係代名詞，無生物主語の他動詞構文に関する事項を理解している。本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。		
	10	Lesson 6 Walking in Gaudí's Footsteps	・サグラダ・ファミリアの主任彫刻家，外尾悦郎さんの活動や考え方について理解し，考えを深めることができる。 ・助動詞+have+過去分詞，S is C(C=whether 節)に関する事項を理解している。本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。		
	11	Lesson 7 Why Biomimicry?	・自然の模倣から新しいデザインを生み出すバイオミミクリーについて理解し，考えを深めることができる。 ・If 節のない仮定法，未来に関する仮定法，仮定法現在に関する事項を理解している。本文の中で使われている表現の意味や働きを理解している。	9	
	12	Lesson 8 Invisible No Longer	・コートジボワールにあるカカオ農園での女性たちの活動について理解し，考えを深めることができる。 ・be to 不定詞，結果を表す不定詞に関する事項を理解している。本文の中で使われている表現の意味や働きを理解している。	10	
第3学期	1	Lesson 9 Nudges	・人々のより良い選択を手助けするナッジという仕組みについて理解し，考えを深めることができる。 ・未来進行形，未来完了形，受動態の進行形に関する事項を理解している。本文中で使われている表現の意味や動きを理解している。		
	2	Lesson 10 Are We Alone ?	・リチャード・ドーキンス博士による地球外生命体の探索について理解し，考えを深めることができる。。 ・独立分詞構文，倒置に関する事項を理解している。本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。		
	3	1 年間のまとめ	1 年間の総復習		

【英語科　シラバス】

科目名	論理・表現Ⅱ			使用教材	教科書	Vision Quest English Logic and Expression Ⅱ Ace
学　年	2	単位数	2		副教材	Vision Quest English Logic and Expression Ⅱ Ace　Workbook 総合英語 be 4th Edition
科・コース	普通科　特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース					

【授業の概要】

「論理・表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ,「話すこと（やり取り)」「話すこと（発表)」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して，発信能力を強化するための発展的な活動に行うとともに，論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたり，伝え合ったりすることができる能力を養います。

【学習方法と授業の進め方】

教科書を使って様々な場面における語彙や表現を学習し,「話すこと（やり取り)」「話すこと（発表)」「書くこと」の 3 つの領域を中心とした言語活動を行います。また，参考書とワークブックを活用し文法事項の理解と定着を図ります。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価します。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・情報や考えを発信するために必要となる語彙や表現を理解している。 ・各レッスンで習得した語彙や表現を適切に活用することができる。 ・各文法事項の用法を理解している。 ・学習した文法事項を適切に応用することができる。	・定期考査の「知識・技能」に関する問題 ・授業中の確認テスト
②思考・判断・表現	・相手とスムーズなやり取りができる。 ・学習した語彙や表現，および文法事項を生かして英訳することができる。 ・習得した語彙や表現，および文法事項を踏まえて自分の英文を膨らませて，情報や考えを発信することができる。 ・相手に理解してもらえるように論理の構成や展開を工夫することができる。 ・あいづちを打ったり質問をしたりするなどして，相手の話を関心を持って聞いている。	・定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題 ・授業中の発言や，ペアワーク，グループワークなどの言語活動 ・発表や書くことを中心とした活動
③主体的に学習に取り組む態度	・学習した語彙や表現，および文法事項表現を使おうとしている。 ・必要に応じて辞書を活用している。 ・間違うことを恐れずに，情報や考えを発信しようとしている。 ・適切に伝えられなかったことを振り返ろうとしている。	・授業中の発言や，ペアワーク，グループワークなどの言語活動 ・発表や書くことを中心とした活動 ・ノートの作成状況 ・ワークブックや課題等の提出状況

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

〔予習〕各レッスンのわからない単語や表現を調べ，Try it out を解く。必要に応じて辞書や参考書を活用する。
〔授業〕授業に積極的に参加し発言することで，予習段階での疑問を解決し，各レッスンの語彙や表現，および文法事項を授業内で定着させるよう心掛ける。ペアワークやグループワーク，課題などに意欲的に取り組む。
〔復習〕その日のうちにノートを見直して間違えた箇所を確認し，学習した語彙や表現，および文法事項を整理して自分の言葉でまとめておく。必要に応じて辞書や参考書を活用する。ワークの問題を解き，解説を確認する。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	Lesson 1 What is your future goal?	Topic : 将来の目標 Logic Focus : 文と文をつなぐ		
	5	Lesson 2 What school events do you have?	Topic : 学校生活 Logic Focus : パラグラフの基本構成		
	6	Lesson 3 Who is the best athlete?	Topic : スポーツ Logic Focus : 例示・追加		
	7	Lesson 4 Is social media safe?	Topic : 情報時代 Logic Focus : 比較・対照	9	
第2学期	9	Lesson 5 How does overusing energy affect us? Lesson 6 What are some culture differences?	Topic : 環境問題 Logic Focus : 原因・理由・結果 Topic : 文化 Logic Focus : 主張や理由の根拠を示す	13	
	10	Lesson 7 Do all Japanese people need to speak English?	Topic : 言語教育 Logic Focus : リーディングの要約	4	
	11	Lesson 8 Is Japan open enough?	Topic : 社会 Logic Focus : リスニングの要約	5	
	12	Lesson 9 What if you were rich?	Topic : 願望 Logic Focus : スピーチ	16	
第3学期	1	Lesson 10 How might AI affect our lives?	Topic : 科学技術 Logic Focus : プレゼンテーション	8	
	2	Lesson 11 What is a healthy life?	Topic : 健康 Logic Focus : ディベート	3	
	3	Lesson 12 What is important when we sell chocolate?	Topic : ビジネス Logic Focus : ディスカッション	12	

【保健体育科　シラバス】

科目名	体育			使用教材	教科書	MY SPORTS（大修館書店）
学　年	2	単位数	2		副教材	なし
科・コース	普通科　特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース					

【授業の概要】

・運動の合理的な実践を通して、体を動かすことの楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、運動能力や体力の向上を図り、自主自立を身につけた豊かな人間性の育成を重点においています。
・生涯を通して継続的に運動ができる資質や能力を育てる科目です。

【学習方法と授業の進め方】

・体育委員が集合、整列、準備運動を行います。
・授業の内容説明と健康状況の確認をします。
・個々のレベルを把握し初歩的な技術を習得します。
・ゲーム形式で行います。
・整理運動と授業のまとめをします。

【学習評価】

・スキルテストを始め下記の観点別学習評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・様々な種目における技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解しているか。 ・ゲームや競技会の仕方などを理解しているか。 ・基本動作や、基本となる技を作戦や状況に応じて用いてゲーム展開をしているか。	・スキルテスト ・ゲーム（簡易ゲームも含む）
②思考・判断・表現	・課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見しているか。 ・課題を解決するための練習の計画を立てているか。 ・自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘しているか。 ・グループ学習においてチームや自己の役割を提案しているか。	・グループ学習 ・ゲーム（簡易ゲームも含む）
③主体的に学習に取り組む態度	・主体的に取り組んでいるか。 ・フェアプレイを大切にしているか。 ・話し合う場面で合意形成に貢献しようとしているか。 ・健康、安全を確保しているか。	・グループ学習 ・スキルテスト ・ゲーム（簡易ゲームも含む）

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・学校指定の体操服、シューズを着用してください。また、こまめに洗濯し衛生面に気をつけましょう。
・授業はチャイムと同時に始めますので、休み時間のうちに活動場所に移動しておいてください。
・見学者は授業前に申し出るようにしましょう。
・貴重品の管理をしっかり行うようにしてください。
・安全面には充分気を配りましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	集団行動 体つくり運動、体育理論	・集合　・解散　・列の増減　・開列　・方向転換 ・行進　・行進からの方向転換　・かけ足　・複合動作 ・まとめ、評価 ・体ほぐしの運動　・体力を高める運動	3	
	5	新スポーツテスト （８種目を実施）	・50m 走　・立ち幅跳び　・ハンドボール投げ ・持久走　・握力　・上体起こし　・長座体前屈 ・反復横跳び	3	
	6	硬式テニス ①　オリエンテーション ②　ストローク	・学習内容の理解、安全性とマナー、ボールやラケットに慣れる ・1 対 1 で向かい合い軽く打ち返す、ストローク、クロスのラリー	3	
	7	③　サービス、ゲーム 器械運動 ・マット運動	・トス、基本的なフォーム、ゲーム形式で練習、リーグ戦で試合 ・前転、後転、倒立、側方倒立回転、片足バランス	3	
第2学期	9	バスケットボール ①　オリエンテーション ②　パスキャッチ、基礎	 ・学習内容の理解、安全性とマナー ・チェスト、オーバーハンド、フック、サイドハンド、パスキャッチ	3	
	10	③　シュート、基礎 ④　ドリブル、基礎 ⑤　簡易ゲーム	・レイアップ、ジャンプ、セット ・ドリブルからパス、ドリブルからシュート ・オールコート 5 対 5 のゲーム	3	
	11	サッカー ①　オリエンテーション ②　ボールに慣れる 基礎練習	 ・学習内容の理解、安全とマナーについて ・ボールリフティング、パス、トラップ、ドリブル、シュート	3	
	12	③　ゲーム ④　まとめ、評価	・正規のルールによるリーグ戦 ・まとめ、評価	3	
第3学期	1	バドミントン ①　オリエンテーション	 ・学習内容の理解、安全性とマナー、ラケットの握り方	3	
	2	②　サービス、基礎 ③　ストローク、基礎 ④　ラケットワークと	・ロングサービス、ショートサービス ・オーバーヘッドストローク（バック、フォア） ・クリアー、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピン	3	
	3	フライトの基礎 ⑤　ゲーム	 ・ダブルスによるリーグ戦	3	

【保健体育科　シラバス】

科目名	保健			使用教材	教科書	現代高等保健体育　　（大修館書店）
学　年	2	単位数	1		副教材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）
科・コース	特別進学選抜コース,特別進学コース,特別進学国際コース					

【授業の概要】

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにする。
生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。

【学習方法と授業の進め方】

保健は２年間を通じて学びます。
保健に関する情報は日々変化し、マスメディアなどから健康問題に関するさまざまな情報があふれています。
生徒の皆さんが間違った認識をもたないように正しい知識を身につけていきます。
健康とは何か、健康を維持増進していくために身体の仕組みを知り、疑問があればそのままにしてしまわずに進んで質問してください。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価します。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解できたか。 ・生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であることと定期的な健康診断を受診することの大切さを理解できたか。 ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理的面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて理解できたか。 ・自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることが理解できたか。 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できたか。	・授業態度 ・期末考査の知識・理解に関する問題 ・ノート提出 ・課題プリントへの取り組み
②思考・判断・表現	・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理できているか。 ・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取り組みや社会的な対策を整理できているか。 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理しているか。	・授業態度 ・期末考査の知識・理解に関する問題 ・ノート提出 ・課題プリントへの取り組み
③主体的に学習に取り組む態度	・心身の健康に関心を持ち学習しているか。 ・自ら健康的な生活を実践するため、健康課題の解決に向け意欲的に取り組もうとしているか。 ・生涯の各段階におけるこれからの健康課題の解決に向け、学習に積極的に取り組んでいるか。	・授業態度 ・期末考査の知識・理解に関する問題 ・ノート提出 ・課題プリントへの取り組み

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・教科書や学習ノートを必ず用意し、配布される資料やプリントは、きちんと保管してください。(定期考査に役立ちます)
・ノートをとる際は、ただ板書を書き写すのではなく、先生の発言も聞き逃すことなくメモをとるようにしましょう。
・提出物は遅れずに忘れず提出してください。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	現代社会と健康 1健康の考え方と成り立ち	さまざまな健康の考え方について例をあげて学んでいきます。 ・健康についての多様な考え方 ・健康の成り立ちとその要因	3	
	5	2私たちの健康のすがた 3生活習慣病の予防と回復	わが国の健康水準とその背景、現在の健康問題について学びます。 ・わが国における健康水準の向上 ・わが国における健康問題の変化 生活習慣病の一次予防、二次予防について学びます。 ・生活習慣病とその種類 ・予防から回復まで	3	
	6	4がんの原因と予防 5がんの治療と回復	がんの一次予防と二次予防について例をあげながら学んでいきます。 ・がんとその種類 ・がんの予防 がん検診の普及や情報サービスの対策を学びます。 ・がんの治療と緩和ケア ・がんとともに生きる社会づくり	3	
	7	6運動と健康	健康と運動の関係について学びます。 ・健康からみた運動の意義 ・健康によい運動のしかた	3	
第2学期	9	7食事と健康 8睡眠と健康 9喫煙と健康	食事と健康の関係を学びます。 ・健康的な食生活の意義 ・健康によい食事のとり方 健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について学びます。 ・健康からみた休養の意義 ・健康からみた睡眠の意義 喫煙者やその周囲の人に起こる害について学びます。 ・喫煙の影響・喫煙への対策	3	
	10	10飲酒と健康 11薬物乱用と健康	飲酒による短期的影響と長期的や個人や社会環境への対策について学びます。 ・飲酒の影響 ・飲酒への対策 薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策を学んでいきます。 ・薬物乱用の影響・薬物乱用の要因と対策	3	
	11	生涯を通じる健康 1ライフステージと健康 2思春期と健康	各ライフステージで活用できる社会からの支援について学びます。 ・ライフステージと死亡や病気 ・各ライフステージにおける健康課題とその支援 思春期における体の変化や心の発達に関わって起こる問題について学びます。 ・思春期の体と健康・思春期の心と健康	3 5	
	12	3性意識と性行動の選択	性意識の男女差について学びます。 ・性意識とその尊重 ・性に関する情報と性行動	3 5	
第3学期	1	4妊娠・出産と健康	妊娠・出産の過程における健康課題について学びます。 ・受精・妊娠・出産・母子保健サービスの活用	3	
	2	5避妊法と人工妊娠中絶	人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について学びます。 ・家族計画の意義と避妊法 ・人工妊娠中絶	3	
	3	6結婚生活と健康	結婚生活を健康的に送るために必要な考え方について学びます。 ・結婚生活の基盤となる心身の発達 ・結婚生活と家族の健康	3	